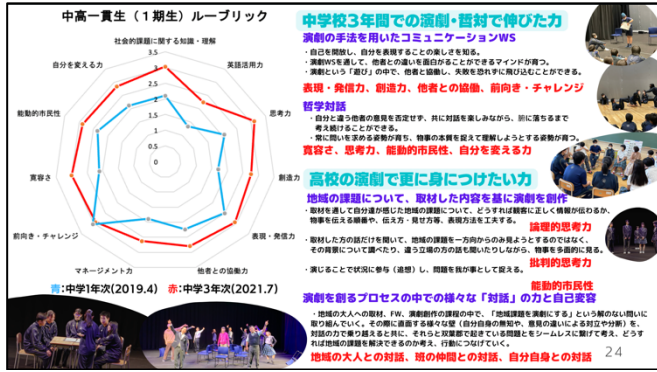


分を変える)。



高校では演劇を通して地域の課題について学ぶが、結果的に中高一貫生が生徒全体に良い影響を与えたと言える。演劇的手法を用いた活動で生徒は、グループ活動という普段とは違う他者との関わりの中で、話し合いながらFW先を決め、取材の役割分担をし、取材した内容を演劇にしていく。

演劇を創るために構成された男女混合のグループ編成はクラスも系列もバラバラである。そのようなグループの中で対立や分断が生じた時、それは平穏なものばかりとは限らず、時には葛藤、衝突、軋轢が伴うものが多かった。一見、上手く行っているように見えるグループも、よく観察すると、一部のリーダータイプの生徒が主導で話し合いを進めており、その他が傍観者だったりしたものだ。しかし、今年度はそのどちらでもなく、お互いの意見の違いを認め合い、楽しみながら創作をするチームが多かった。これは哲学対話を通して協働できるリーダーが育ったからだと考える。また、これまでになく創造的な作品がそれぞれの班から生まれた。これらの活動を通して育った力は以下の通りである。

- ・ 中学3年間の演劇&哲学の学びを経た中高一貫生の役割(協働できるリーダー)
- ・ 次に続く「探究」に必要な「批判的思考力」「論理的思考力」が身についた
- ・ 様々な対話を通して、他者理解や他者への興味、地域の課題への理解が深まった。

分断・対立の構図に第三者として触れる / 演じることで体験し、問題を我が事として捉える

アレント「公平性(非党派性)は、複数の他者の複数の観点(viewpoints)を考慮することによって獲得される」

令和3年度1年次 3班作品 『トリチウム』
取材相手:東京電力広報担当Aさん(震災当時双葉郡の高校3年生)

東電「被災者から加害者になってしまう」
漁師「こいつらバチこいてる」「国民は知ってるのか、安全だって」
東電「伝えられる人、伝わっているからこそ大変な人、伝えたい人」
漁業関係者への追加インタビューを行った。

漁師「トリチウムのせいで、俺たちの魚が売れなくなる」
漁師「いや、俺たちがトリチウムに負けない魅力づくりをしなれば」

令和4年度1年次 20班作品 『大熊と未来の人々のために』
取材相手:鹿島建設(除染解体作業員)Kさん

大熊町民「前に進むためには仕方ない」
「悪い出の詰まった家を解体してほしくない」
鹿島建設「本当はものづくりがしたくてこの会社に入ったのに」
「辛い現場もあるけど復興のためだから」
女子高生「解体ありえない、かわいそう。うちには関係ないけど」

(4) シティズンシップの醸成

生徒会役員を中心に1年間議論し、今年度は校則改正について動いた年となった。新年最初の登校日に校則を改正し、全校生に説明した。あわせて、校則改正規定を定めた。学校を民主主義の舞台としていくために法改正のプロセスを参照している。

全生徒の考えを深め、合意を形成していくこと。その際に、目的の正当性(なんのために変えるのか)、妥当性(なぜ校則による必要があるか)、整合性(正義と衡平、不整合や悪影響はないか)を検討することを大事に取り組んだ。これらも演劇や哲学対話を通して生徒一人一人にシティズンシップが育まれた結果と言える。

(5) 質疑応答

Q:人生を想像させ、未来創造探究に繋げていくというなかで、高校1年生から高校2年生に繋がられない生徒はいないのか?

→探究の授業でもなかなか手につかない生徒がいるが、知識を付けたり、好きなこと・やりたいことを探すなかで、自分が探究したいものを見つけ、町とどのように関わられるかを考える。

Q:ファシリテーターを生徒に任せただけの場合、問題にならないか?

→中学の哲学対話、生徒たちだけでは難しい部分がある。安心できて出来るように対話をさせるようにするためにも、教員のサポートを取る場合もある。また、普段の授業でも全員が置いていかれる生徒がいないように確認作業をしたりしている。

Q:たくさん出た問いを教員がどのように対応しているのか?

→一人ひとりの思った問いを記載。問いの意味を提示させる。全員が同じ土俵に立ち、多数決をとる。その他、話し合いのなかで問いを決める。その際、少数の意見にも注目をするなどの手法を取り入れるなどの工夫をしている。

Q:哲学対話を通してどのような変化があるか?

→自分たちでアクションを起こすことを考えさせることにより、コミュニケーションを通して対話ができるようになる。話が聞けるようになる。このことは授業中を通して感じられることである。

Q:哲学対話の答えを知っている先生と答えを知らない生徒の関係をどのように対応して乗り越えているのか?

→あえて知らない役をすることも。しかし、答えがない場合が多く、先生としても一参加者として入って、人生経験を踏まえて話したり、生徒からの意見を聞いたりと、共に考えることが多い。

Q:グループで活動する効果は

→意見の違いをネガティブなものとして捉え、傍観者でいることで乗り越えるべき壁を避けており、対話が成立していない班は、作品が深まらずに表面的な部分をなぞったものとなることが多い。逆に、あらゆる壁にぶつかり、上手く行っていない班ほど、それらの対立や分断を対話によって乗り越えた先に完成した演劇は、こちらが驚くほど地域の課題を捉えた素晴らしいものとなっている。

5.2.5 伴走する先生を支える主体的・対話的で深い学び ～教員エージェンシーと指導力向上～

本校の「未来創造探究」は、探究ゼミでの活動を中心に複数の教員によって構成されたチームが協働をしながら、組織的に運用・改善がなされてきた。具体的な授業運営や生徒伴走の方法に関しては、他の章で述べられているためここでは割愛する。本章では、グローバル型研究成果報告会に際し実施した教員アンケートを基に、「探究に関わったことで、教員自身にどのような変化や学びがあったか」、「探究を推進するにあたって、重要なサポートは何か」の2点について報告する。

(1)はじめに

「総合的な探究の時間」は、学習指導要領においても「各学校においては、第1に示した総合的な探究の時間の目標を踏まえつつ、課程や学科をはじめとした学校の特色、生徒の特性等に応じた教育活動を行うことが求められる。」とあるように、各校に運用が委ねられている現状がある。また、実際の指導においても「学習単元や教科書が設定されていない」、「専門性を持つ専科教員が存在しない」など、自由度(=曖昧性)が高いという特性があり、授業を行う教員にとっても揺らぎが起こりやすい状況にある。

実際に、2019年に取得した教員アンケートでは「つかみどころがない」、「未知の授業」、「初めは探究の時間が苦痛だった」など、その曖昧性の高さゆえに起こる不安や悩みが読み取れる回答が多くあった。

(2) 未来創造探究に関わることによって教師自身に起こった変化

2022年9月～12月にかけて、「未来創造探究(総合的な探究の時間)の運営経験を通じて、教師にどのような学びや変化があったか」、仮説を立てるための材料を取得することを目的とし、ふたば未来学園中学校・高校の教員を対象にアンケートを実施した。(取得件数=36)

結果を以下に示す。

質問① 未来創造探究を実施した前と後で以下の悩みや不安に変化はありましたか？

質問①では、未来創造探究を実施した前と後で、以下のa～gの悩みに変化があったかを5段階評価(1が「解消されていない」5が「当初の悩みや不安が解消された・次の課題に変化した」)で質問した。

- a. 探究におけるテーマ・問いの設定の仕方について
- b. 生徒の学びの評価方法について
- c. 授業案・カリキュラム設計について
- d. 探究における調査や実践の支援について
- e. 外部との連携・協働について
- f. 校内での探究授業の理解の促進について
- g. 進路との接続方法について

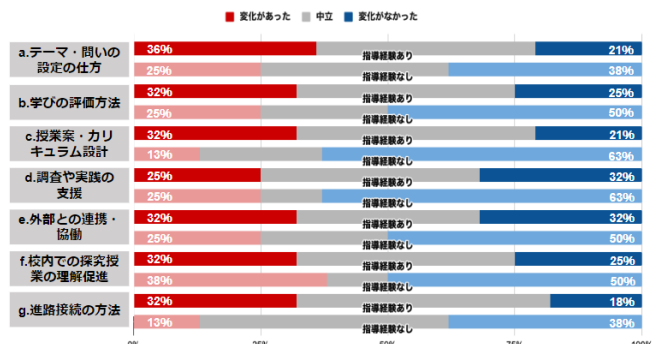


図1 探究の実施前後で上記の不安や悩みに起きた変化

アンケートを分析すると、「企画研究開発部所属の有無」や「探究ゼミリーダー経験の有無」では差異が出ず、「ゼミ指導経験の有無」で比較をすると指導経験がある教員は、全体的に肯定回答が高い傾向にあった。ただし、「調査や実践の支援」のみ指導経験の有無に左右されず否定回答が肯定回答を上回った。(※「指導経験の有無」=高2,3年の探究ゼミを半年以上担当したことがあるか、ないか)

「調査や実践の支援」に関して、指導経験のある教員に聞き取りを行ったところ、①1人の生徒に上手くいった指導法が他の生徒にそのまま適応できるわけではない。(生徒やテーマに合わせた個別性の高い伴走の重要性)

②現状の悩みが解決されると新たな課題にぶつかるため、悩みが完全には解決されない。(プロジェクト進捗による指導方法の変化の必要性)といった回答が得られ、「総合的な探究の時間」における指導の特性が影響していることが予想される。

質問② 未来創造探究を実施した前と後で以下の項目に変化はありましたか？

質問②では、未来創造探究を実施した前と後で、以下の3つの項目に変化があったかを5段階評価(1が「変化がなかった」5が「変化があった」)で質問した。

- a. 教員間で協働したり、日常的に話し合ったりする機会が増えた。
- b. 新しい取り組みを実践することに対して前向きに捉えられるようになった。
- c. 地域の大人やカタリバなど、外部人材と協働することを前向きに捉えられるようになった。

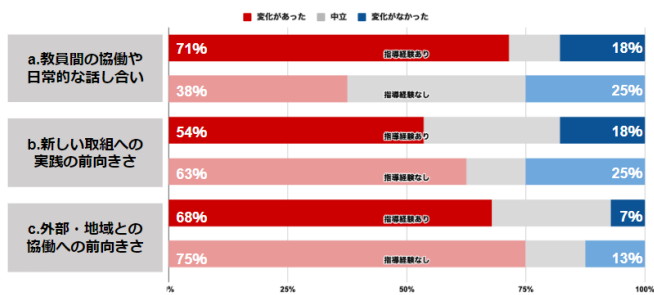


図2 探究の実施前後で上記の項目に起きた変化

質問③ 未来創造探究を実施した前と後で、あなたの「学び」に対する価値観や考え方（学習観）にどのような変化や揺らぎがありましたか？（自由記述）

No.	コメント抜粋
1	長いスパンで生徒の成長を見守れるようになった。
2	主体的に取り組めない生徒の対応は相変わらず難しい。
3	教員が知識などを押しつけるのではなく、 生徒が自分で行動したり気づいたりすることが大切 であると感じ、必要以上に干渉しないようにするようになった。
4	答えを与えるのではなく、ヒントを与えるように意識するようになった。
5	生徒の考えを聞くことがより増えた。
6	生徒1人1人の気持ちや学びへの動機づけを意識するようになった
7	生徒の学習状況（進捗状況や意欲）に応じた教員の関わり方やサポートの仕方を意識するようになった。
8	「何のために」「どういったことに役立つのか」など先々を見据えた視点を問うようになった。
9	進学先と学びたいことのマッチングが実現できるようになったことと、学びの転移が意識できるようになったこと
10	生徒の探究であるため、教員として最低限の指導は必要であるが、探究活動においては生徒の支援や理解を多くし、 生徒のモチベーションを高める働きかけが大切だと感じている。
11	生徒自身が興味を持たないと探究が深まらないので、やはり 動機づけやそのテーマに至った過程が大切 だと改めて思いました。
12	生徒の学びたいという主体的な気持ちが 強いほど、探究の内容も深まっていくと感じた。

表3 探究を経験することで起きた教員自身の変化

質問②では、全項目で指導経験に関係なく肯定回答が否定回答を上回ったが、特に「a.教員間での協働や日常的な話し合いが増えた」では伴走経験の有無で差が顕著にあらわれ、7割以上の教員は変化があったと回答をしていた。

また、質問③の自由記述回答では、個別の学習状況を見立てることや、内発的動機づけやモチベーションを重視する意識への回答が多く、主に指導に対しての意識変容の記述が多く見られた。これらは後の「授業運営に必要な支援」でも述べるが、各ゼミの定例 MTG 等を初めとした協働促進の仕組みが反映された結果と言えるだろう。

(3) 教員の変容を支える対話の文化

質問④ 授業運営に対して有効だった支援は何ですか？（※複数の設問の記述回答を抜粋）

支援内容	コメント抜粋
話し合い・相談	具体的な生徒の話からどのように伴走するか、どのように探究活動を支援するかを企画部内で話している。 目標と恒常的に情報交換（対話から洞察まであくまで）できる環境はきわめて大きい。 生徒によってテーマが異なるため、 話し合いを日常的に行わなければならないことができない。 ゼミミーティングで各PJについて話し合った。 日々の雑談の中にも話が出てくることもある 自分の思考を整理したいとき、アイデアをが欲しい時に 【壁打ち】 をしてみようこと、 企画研究開発部や探究に携わる教員、カタリバのスタッフの皆さんとの連携、特にミーティングの機会フォームやスプレッドシート等による記録が定期的にあることが指導上大いに役立っていると思います。 中学教員だけでは情報量に限界があるため、高校教員やカタリバスタッフに 相談する 商りに「とりあえずやってみよう」という 前向きなマインドを共有できる仲間がいること。 生徒に関する情報共有が増えた。 先生方との日常的な情報共有 担当している班への助言などをいただく機会があるため
アドバイス	たくさん 人の意見や、考え方を取り入れないでそれぞれの生徒に対応できないから。 学年に入っていたいたカタリバスタッフのみならずが生徒の探究に対して真剣に考えていただき、生徒や教員に助言していただいたから
チーム体制	教員間で協力することができたため。
事例の共有	高校生や中3生の発表の様子を見て 新年度からのデータの蓄積、他学年の発表を見る機会です。 外部に送るメールの文章などのアドバイス（生徒から質問があったことへの回答）。 テーマ設定する際に用いた資料等
校内研修	未来研究会（教員の研修）はもっとやったほうがいい。

表④ 授業運営に対して有効だった支援

授業運営に対する有効な支援を、各質問の自由記述から抜き出したところ、研修などよりも「ゼミ定例 MTG」や「教員間での日常的な雑談・相談」といった回答が非常に多く見られた。

本校では、企画研究開発部、各ゼミの担当者など、それぞれの役割に応じて MTG を設定しており、この重層的な会議体の設計が協働を促進する仕掛けになっている。

会議体	参加者		頻度	主な議題・内容
	教員	カタリバ		
各探究ゼミ週次 MTG	・各探究ゼミ担当教員（リーダー1名+2〜3名）	・探究ゼミ支援スタッフ	週次	・各生徒の進捗共有、指導・伴走方針のすり合わせ ・次回以降の授業設計
月次担当者会	・各探究ゼミ担当リーダー1名（+2〜3名） ・学年探究担当教員	・学年付コーディネーター ・探究ゼミ支援スタッフ	1〜2ヶ月に1回	・課題組や方針、スケジュールの共有 ・解決策の議論、立案 ・月次担当者会の企画設計 ・全体授業、校内発表会の企画設計
各学年コアMTG	・学年探究担当教員	・学年付コーディネーター	週次	・各探究ゼミ・生徒の現状把握 ・解決策の議論、立案 ・月次担当者会の企画設計 ・全体授業、校内発表会の企画設計
企画研究開発部 部会	・所属教員全員	・統括コーディネーター ・学年付コーディネーター	週次	・各学年の進捗・課題の共有 ・カリキュラム全体の議論 ・外部発表会マネジメント 等

表5 実際の各探究ゼミ MTG・月次担当者会の実施内容

担当者は、他教員との対話や議論を通じて、個々人の内省、知見の共有、アイデアの発散を行うことで、現状の課題に対する解決策を得て、次の実践に向かうことができていると言えるだろう。



2年次探究担当者月次会の様子

(4) 今後の展望

未来創造探究を軸として校内で培われた「対話と協働」の素地が、「学び続ける教師」の後押しとなり、組織のしなやかさを生み出している。

コロナ禍での臨時休校期間でも、ICT ワーキングチームを中心に教員が自律的に各教科で議論・検討し、即時の ICT 授業への移行などが実現された。

このように、日常で培われた「対話と協働の文化」は有事の際にも柔軟に変化に対応することに繋がっていたと考え、変革が求められる現在の学校教育の現場において示唆深く、今後も「学校」という組織の変化の可能性を探究していきたい。

5. 3 課題と今後の方向性

(1) さらなる探究の高度化

より文理融合したグローバル・イシューや高度な学問分野との接続を強化するため、令和5年度以降WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築事業に申請している。福島アドバンスラーニングネットワークを形成し、県内の連携校とともにカリキュラム開発や東北大学・早稲田大学・福島大学などの連携大学とAP（アドバンスト・リプレイスメント）の導入の準備を進める。また、福島をフィールドとしたグローバル探究や世界をフィールドとしたグローバル探究など、探究を軸としたカリキュラム開発を進めていく計画である。

この事業を進める中で、長期的な目標としては、福島国際研究教育機構をはじめ、地域や全国・海外で世界と協働しながら活躍人材の輩出や「教育」と「創造的復興による持続可能な地域実現」の相乗効果を創出することを実現したいと考えている。

(2) 教科横断的な学習と総合探究、教科と探究の往還関係の構築

教科と探究の往還関係については、SGH時代から本校では「クロス・カリキュラム」として研究開発を進めてきた。SGH時代にはある程度の成果をあげたが、グローバル型指定期の3年間ではコロナ対応などもあり、取り立てて効果的な研究開発を進めることができなかった。WWLに申請するにあたり、文理融合カリキュラムを構築する必要から、クロス・カリキュラムの意義を再確認することができた。これまでの偶発的なクロス・カリキュラムから教科横断的な学習を学校全体のカリキュラムに統合する方法を研究して、文理バランスよく人材育成を図っていくカリキュラムデザインを今後検討したい。

(3) 地域復興と教育の相乗効果を生み出す探究学習

生徒の探究での活動が活発化し、地域の方々との協働によって、生徒の探究は年々深化している。今回の探究大賞を受賞した生徒は、実践を通じて、双葉郡の子どもたちにとって地域での習い事の数が少ないという顕在化していなかった新たな課題を発見し、その課題解決にも貢献した。一連のワークショップを経て大観衆の前でパフォーマンスを行ったプログラムにより、子どもたちの心に生涯残る確かな変容を生み出した。また、双葉郡の親子をはじめ、様々な方々を活動に巻き込み、ソーシャル・キャピタルとしてのチアを行うことで、地域住民のウェルビーイングの向上につなげ、特筆すべき成果をあげた。一方で地域住民のウェルビーイングについての検証についてはまだまだ未知の領域であり、どのように評価していくかについては、今後も研究を進める必要がある。

(4) 全校で探究学習を伴走するための校内研修の充実

昨年に引き続き、今年度も教員の指導力向上に向けた取組を組織的に実践することができた。具体的には以下のような取組が行われた。

- ・未来研究会（全体で行う教員研修）（年間3回）
- ・企画・研究開発部（15名程度）による定例ミーティング（週に一度実施。探究関連の取組についての議論、情報共有の場）
- ・各学年の探究担当者（各学年20名程度）による月次会（月に一度実施。生徒の指導の在り方等についての議論、情報共有の場）
- ・2, 3年の各ゼミ担当者（各3名程度）による定例ミーティング（週に一度実施。ゼミ内の探究テーマの指導、進捗確認の場）

小さな会議体を増やして、機動力をあげつつ、全体での研修会を減らしてきた。グローバル型指定期の3年はコロナ対応に伴うオンライン化への準備・研修や働き方改革に伴う会議の削減などの課題に向き合ってきた。今年度の研修ではグローバル型最終年度にむけての目線合わせを行った。2回目の未来研究会では、「探究の効果的な伴走方法」をテーマに、探究伴走の具体事例の洗い出しを行い、学校全体の伴走力のブラッシュアップを行った。この研修から、教員はチェックリストを用いてどのように生徒と向き合っているかをチェックしながら、探究ステージ-伴走スタンス-具体的な関わり事例を検討した。

ふたば未来学園中学校・高校は探究学習の先進校として県内外からも認知されるようになってきた。その分、教員がかかえる校務量は多く、教員の長時間労働やカリキュラムオーバーワークが問題点としてあげられる。一方、その中でもなくしてはいけないものもある。例えば校務の中で削減してはいけないものは「目線合わせ」のための会議や「理念を共有」する会議である。校務の内容を精選しつつ、教員のウェルビーイングを図るうえで、「自分たちが必要だと思う教育活動は何か」を教員間で議論し、校務の棚卸しをすることが必要不可欠である。次年度以降も限られた時間とリソースをどの活動に注力するかを検討していきたい。

(専門教科・科目及び学校設定教科・科目)

教科	科目	入学年度		令和4年度			令和3年度			令和2年度			備考
		年次		1	2	3	1	2	3	1	2	3	
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	
農 業	農 業 と 環 境				2			2			2		課題研究は、2・3年次継続履修。 総合実習は、2・3年次継続履修。 食品製造は、2・3年次継続履修。
	課 題 研 究				3	3		3	3		3	3	
	総 合 実 習				3	3		3	3		3	3	
	農 業 情 報 処 理								2			2	
	野 菜					2			2			2	
	草 花				2			2			2		
	食 品 製 造				2	2		2	2		2	2	
	微 生 物 利 用								2			2	
	造 園 技 術								2			2	
	農 業 と 情 報					2							
地 域 資 源 活 用						3							
工 業	工 業 技 術 基 礎				3			3			3		
	課 題 研 究					4			3			3	
	実 習					3			3			3	
	製 図				2			2			2		
	生 産 シ ス テ ム 技 術								2			2	
	環 境 工 学 基 礎								2			2	
	電 気 基 礎							3			3		
	電 力 技 術					2			2			2	
	社 会 基 盤 工 学					2			2			2	
	地 球 環 境 化 学				2			2			2		
	電 気 回 路				3								
	工 業 環 境 技 術					2							
	生 産 技 術					2							
商 業	ビ ジ ネ ス 基 礎				2			2			2		令和2、3年度入学生は、課題研究及び原価計算は、 2・3年次継続履修。 令和4年度入学生は、簿記は、2・3年次継続履修。
	課 題 研 究					3		3	3		3	3	
	マ ー ケ テ ィ ン グ				3			2			2		
	商 品 開 発								2			2	
	広 告 と 販 売 促 進								2			2	
	簿 記				4	2		3			3		
	財 務 会 計 I								3			3	
	原 価 計 算					3		2	2		2	2	
	ビ ジ ネ ス 情 報								2			2	
	情 報 処 理				3								
	ビ ジ ネ ス 法 規					2							
	ビ ジ ネ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン					2							
ビ ジ ネ ス マ ネ ジ ム ン ト					2								
観 光 ビ ジ ネ ス					3								
家 庭	子 ど も の 発 達 と 保 育							2			2		子どもの発達と保育は、2・3年次継続履修または3 年次のみ履修。 令和4年度入学生は、フードデザインは2・3年次継 続履修。 保育基礎は、2・3年次のいずれかで履修。また、保 育実践は2年次で保育基礎を履修した者が3年次で選 択可。 介護福祉演習は、2年次で生活と福祉を履修した者が 選択可。
	生 活 と 福 祉				2・4			2・3			2・3		
	フ ー ド デ ザ イ ン				2	3			4			4	
	保 育 基 礎				2	2							
	住 生 活 デ ザ イ ン				2								
	フ ァ ッ シ ョ ン 造 形 基 礎				2								
	保 育 実 践					2							
課 題 研 究					4								
介 護 福 祉 演 習					6								
情 報	情 報 メ デ ィ ア							2			2		
	ア ル コ リ ス ム と プ ロ グ ラ ム							2			2		
福 祉	情 報 デ ザ イ ン				2						2		
	社 会 福 祉 基 礎							2			2		
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術							3			3		
	生 活 支 援 技 術								4		4		
	介 護 総 合 演 習								4		4		
体 育	こ ころ と か ら だ の 理 解							2			2		
	ス ポ ー ツ II	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
	ス ポ ー ツ III	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
音 楽	ソ ル フ ェ ー ジ ュ							2			2		
	鑑 賞 研 究							2			2		
美 術	器 楽							2			2		
	素 描										2		
英 語	鑑 賞 研 究										2		
	英 語 演 習					3			3		3		
人 文	総 合 英 語 演 習					4			4		4		
	国 語 演 習					3			2		2		
	世 界 史 演 習					3			5		5		
	日 本 史 演 習					3			5		5		
	表 現 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン					2			2		2		
	数 学 演 習				1	3・5			4		4		
理 数	総 合 数 学 演 習				2・3	3・5			6		6		
	応 用 数 学					2			2		2		
	微 分 積 分 演 習					3							
	数 理 数 学					5							
	化 学 演 習					2			2		2		
	生 物 演 習					2			2		2		
	地 学 演 習					2			2		2		
	物 理 演 習					2					2		
理 科 総 合 演 習					3								
産 業	ス ベ シ ャ リ ス ト 基 礎				2								
	Webデザイン&Webプログラミング					2							
農 業	業 子 演 習				2								
工 業	地 域 エ ネ ル ギ ー				2			2			2		
保 健 体 育	ト ッ プ ア ス リ ー ト 概 論				2	1							
探 究	地 域 創 造 と 人 間 生 活	2					2						
総 合	産 業 社 会 と 人 間								2				
総 合 的 な 探 究 の 時 間		1	3	2			3	3		3	3		
小 計			74~				74~			74~			
ホ ー ム ル ー ム 活 動		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
合 計			77~				77~			77~			
組 編 成			5				4			4			

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 人材育成要件・ルーブリック(6 April 2021 Ver.)

協働
創造

学力概念	No	資質・能力・態度(まとめると)	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
知識 Knowledge "What we know"	A	 社会的課題に関する知識・理解 一般常識や基礎学力をつけながら、世界・社会の状況の変化やその課題を理解するための知識を身に着ける。	地域や社会の成り立ちについての基礎的な知識を得る。	地域の復興に向けた課題や、目の前の課題についての基礎的な知識を得る。	環境・エネルギー問題など持続可能な社会実現に向けた課題や、世界の状況・課題について基礎的な知識を得る。	社会の課題について、習得した知識を深掘し、周辺情報や関連情報を集め理解する。	社会の課題について、目の前の課題と関係する知識を俯瞰してつなげ、人に説明できるレベルまで理解する。
	B	 英語活用力 英語を使つてのコミュニケーションができるようになる。	英語でコミュニケーションをとろうとする関心・意欲・態度を持ち、自分のことについて英語で簡単に伝えられる。	自分の興味関心のあることや、地域について英語で説明できる。	地域や研究内容について、原稿を元に英語でスピーチし、簡単な質疑応答ができる。(CEFR A2レベル)	地域や研究内容について、即興で英語でスピーチし、意見交換ができる。(CEFR B1レベル)	地域や研究内容について、ストーリー、データ、事例などを交えながら英語で説得力を持って主張し、議論できる。(CEFR B2レベル)
技能(スキル・コンピテンシー) Skills "How we use what we know"	C-1	 思考力 物事を論理的に考え、批判的思考で掘り下げ、スケールの大きな考え方ができる。	与えられた情報を整理できる。	目の前にある課題やその解決のための内容を論理的に掘り下げて考えることができる。	メディアを活用して情報を集め、情報を分析・評価・活用しながら課題を発見したり設定できる。	現実と理想の差を踏まえながら、広い視野・大きなスケールで既知の事実について批判的に考え、本質を追求することができる。	未知のことについても粘り強く考え、自分の考えや常識にとらわれず、本質的・根源的な問いを立て、多面的に考えることができる。
	C-2	 創造力 自分なりの見方や好奇心を持って試行錯誤し、社会に新たな独創的価値を創造することができる。	アイデアを生み出そうと、自分なりの見方や考え方に基ついた観察や思考を行うことができる。	好奇心をもって、他者との違いを楽しみながら自分なりのアイデアを生み出そうと行動できる。	目の前の課題に対して、これまでに得た知識や技術に関連づけながら、自分なりのアイデアを実現しようと行動できる。	行動する中での出会いから得られた知見や発想を取り入れ、自分なりのアイデアを社会的に価値あるものに高めることができる。	試行錯誤(創造のスパイラル)を繰り返しながら、価値を更に発展させ、社会に新たな独創的価値を創造することができる。
	D	 表現・発信力 どのような場でも臆することなく自分の考えを発信でき、他者の共感を引き出せる。	自分の意見や考えを、集団の前で話すことができる。	突然指名されたときでも憶せず、集団の前で、自分の意見や考えを相手に伝えるように表現することができる。	データや事例を紹介しながら、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	多様な人々へ、相手の立場や背景を考えたり、テクノロジーを活用したりしながら、分かりやすく伝えることができる。	多様な人々へ、熱意とストーリーを持って腑に落ちる形で説得力ある発信を行い、共感を得ることができる。
	E	 他者との協働力 異文化・異なる感覚の人・異年齢等を乗り越え、仲間と協力・協働しながら互いに高めあえる行動が取れる。異文化・異なる感覚の人・異年齢等を乗り越え、仲間と協力・協働する。	集団や他者との中で、決められたことや指示されたことに一人で取り組むことができる。	集団や他者との中で、自分の役割を見つけ、個性を活かしながら行動でき、身近なメンバーの支援もできる。	集団や他者との中で、他者の良さに共感し、新たなものを取り入れながら、共通の目標に向かって活動を進め合意形成を目指すことができる。	集団や他者との中で、互いに良い部分を引き出しながら、win-winの関係を作ることができる。	分断・対立、文化・国境を越えて、社会を変革する行動にうつし、互いに高めあう同志としての関係をつくれる。
	F	 マネジメント力 自分や組織での取り組みを計画性を持って進めることができる。	指示を受けながら作業を実施できる。	指示を待たず、解決に向けた適切な目標を設定し、自発的かつ責任を持って自分の作業を実施することができる。	全体にとって必要な作業を見出し、自分の作業に優先順位をつけて、複数の課題に同時に対処することができる。	作業の繋がりが、全体スケジュールを意識し、チームやメンバーで作業を適切に役割分担して目標に向けた行動ができる。	今後のスケジュールやリスクを把握して、リスクへの対応策をチームで確認しながら進めることができる。
	G	 前向き・チャレンジ 自分を意味ある存在として考え自信を持ち、課題解決のために自分の役割を見つけ、全力で取り組み、決してあきらめず遂行できる。	自分を意味ある存在として考え、物事をポジティブに捉えることができる。	自分に自信を持ち、目の前の課題を自分のこととして好意的に捉えて、主体的に取り組める。	集団や他者との中で、自分の役割を見つけることができ、すぐに解決方法が分からなくても考え続けることができる。	困難にぶつかっても自分の責任を果たす努力をし、困難克服のために、前向きにチャレンジし、まず行動できる。	困難にぶつかっても逃げずに自分の責任を果たし、失敗してもその失敗を糧とできる。
人格(キャラクター・センス) Character "How we engage in the world"	H	 寛容さ 異文化や考えの違う他者を受け入れ、思いやるあたたかさを持ち、協調して共に高めようとする。	集団や他者との中で、他者を気づかえる。	集団や他者との中で、相手の立場や考えを想像し、共感できる。	集団や他者に対して、思いやりをもって行動し、周囲の幸せを考えることができる。	考えの違う他者に対して、ユーモアを持って接するなど、他者との違いを楽しめる。社会や環境の変化を前向きに捉えられる。	考えの違う他者の意見や存在を、自分や社会をより良くしていくための重要なものと考え受け入れられる。
	I	 能動的市民性 社会を支える当事者としての意識を持ち、地域や国内外の未来を真剣に考えることができる。	所属する集団の一員としての自覚を持つ。	社会の一員としての自覚を持ち、社会の抱える問題に目を向けようとする。	社会をより良くしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がより良くなるための考えを持つことができる。	社会に貢献しようとする意欲と自分の価値観を持ち、自ら社会に影響を及ぼそうとする。	社会・未来を良くしようとする志を持ち、自分自身の意見を他者に真剣に語る。
自らを振り返り変えていく力(メタ認知) Metacognition "How we reflect and learn"	J	 自分を変える力 自分の言動や行動を俯瞰して見つめ直し、常に改善しようとする意識を持ち、次の行動や、将来の夢に繋げることができる。	自分を向上させるために、自分自身で目標を立てることができる。	自分を向上させるために、自分の目標と現実の差を見つめることができる。	自分の目標に近づく方策を考え自ら行動することができる。	自分の目標の達成のための行動を、常に自分自身で見直して反省しながら、学び続け、次の行動につなげて取り組むことができる。	社会の中での自分の役割や意義を俯瞰して考え、自分の目標や将来の夢と関連づけて大局的に行動できる。

自立

令和4年9月7日
高校教育課

令和4年度福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」
第1回運営指導委員会 記録

日時 令和4年9月7日（水）15:00～16:30

会場 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校（オンライン開催）

【出席者】

No	所属	職	氏名	備考
1	OECD教育スキル局	シニア政策アナリスト	田熊 美保	オンライン参加
2	慶應義塾大学	教授	飯盛 義徳	オンライン参加
3	國學院大學	教授	田村 学	※都合により欠席
4	ふたば未来学園中学校・高等学校	校長	郡司 完	
5	ふたば未来学園中学校・高等学校	副校長	南郷 市兵	
6	ふたば未来学園高等学校	教頭	星 弓彦	
7	ふたば未来学園高等学校	教頭	佐藤 章	
8	ふたば未来学園中学校	教頭	大森 淳	
9	ふたば未来学園高等学校	教諭	山崎 次郎	教務部主任
10	ふたば未来学園高等学校	教諭	渡部 ゆかり	生徒指導部主任
11	ふたば未来学園高等学校	教諭	日渡 淳一	進路指導部主任
12	ふたば未来学園高等学校	教諭	新関 幸太郎	総務部主任
13	ふたば未来学園高等学校	教諭	北原 志帆	図書部主任
14	ふたば未来学園高等学校	教諭	遠藤 太	保健厚生部主任
15	ふたば未来学園高等学校	教諭	佐藤 和義	1年次主任
16	ふたば未来学園高等学校	教諭	中村 慎	2年次主任
17	ふたば未来学園高等学校	教諭	遠藤 明緒	3年次主任
18	ふたば未来学園高等学校	教諭	林 裕文	企画・研究開発部主任
19	ふたば未来学園高等学校	教諭	齋藤夏菜子	企画・研究開発部副主任
20	ふたば未来学園高等学校	教諭	高野 寛之	企画・研究開発部
21	ふたば未来学園高等学校	教諭	小磯 匡大	企画・研究開発部
22	ふたば未来学園高等学校	教諭	板倉 雄太	企画・研究開発部
23	ふたば未来学園高等学校	教諭	高山 さなえ	企画・研究開発部
24	NPO法人カタリバ双葉みらいラボ	拠点長	横山 和毅	
	高校教育課	課長	平澤 洋介	オンライン参加
	高校教育課	主任指導主事	志賀 勲	オンライン参加
	高校教育課	指導主事	赤岡奈津美	オンライン参加

1 開会（15:00）

2 主催者あいさつ（高校教育課 平澤洋介課長）

3 指定校長あいさつ（ふたば未来学園中学校・高等学校 郡司完校長）

4 運営指導委員及び関係者紹介

5 運営指導委員長及び委員長代理選出

6 説明（学校より）

- (1) 令和3年度の取り組みについて
- (2) 令和4年度の研究開発実施計画について
- (3) 今年度取り組んでいきたいことと今回の協議題について

7 協議「学校全体のカリキュラム・マネジメントの観点から、未来創造探究で取り扱う生徒のプロジェクトにどのようにして教科の知識を組み入れていくか？」について

○ 田熊 美保氏【OECD教育スキル局シニア政策アナリスト】

・探究と教科の横断について、注意することは、異なる教科の教員同士でチームを作り、解を見つけるようにしないとオーバーロードになってしまうという報告がある。また、学年や校種によって、知識の習得に違いがあるので、発達段階に合わせたカリキュラム開発が大切である。地域住民への効果については、海外ではソーシャルインパクトという評価がかなり進んでいるので、ぜひもっと掘り下げてもらいたい。さらに、地域住民が若者と出会うことで、社会全体の価値観のアップデートにつながる効果も期待できる。教員エージェンシーについても考えられていることは素晴らしく、それをサポートする管理職や教育委員会のエージェンシーも重要である。

・ドイツでは脱原発を決めたが、エネルギーの価格高騰の中で、政治的判断を変えなければならないという議論が高まっている中で、ぜひ福島の高校生と話をしたいというような学校もある。福島ならではのテーマを是非掘り下げてもらえたらと思う。また、教科的知識のブリコラージュについては、探究格差に注意してほしい。その生徒にはどのくらい教科的知識があるのか丁寧に見取ってほしい。

・ふたば未来学園の生徒の「探究ノート」がまさに探究と教科の横断であると思う。それをカリキュラムにしたらどうなるかを探究してほしい。

○ 飯盛 義徳氏【慶應義塾大学総合政策学部教授】

・指標を定めることは極めて難しい。指標を達成したからといって、学校の目標を達成したことにならないことがある。ふたば未来学園がほかに例のないフロントランナーであることも難しさに拍車をかけている。この難しさをどうクリアしていくかが大切である。

・探究活動を通じて、教科学習に意欲的に取り組むようになることは、よく聞く話である。非常に難しいことではあるが、探究と教科の学習がうまく連動していく仕組み作りができると良い。

・今、大学で実践している探究学習において、我々の役割は、学生と地域住民が共に学び合う場作りをすることである。大学にいる間は、レクチャーはするが、学生が地域のフィールドに出たら、こちらはコーディネートに徹し、教えることはしない。決まった答えがないので、徹底的に学生達自身に考えてもらうことに醍醐味があるからである。学んだことをフィールドで生かした知識は忘れないものである。

8 閉会（16：30）

令和5年2月13日
高校教育課

令和4年度福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」
第2回運営指導委員会 記録

日時 令和5年2月13日（月）15:00～16:30
会場 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校（オンライン開催）

【出席者】

No	所属	職	氏名	備考
1	OECD教育スキル局	シニア政策アナリスト	田熊 美保	
2	慶應義塾大学	教授	飯盛 義徳	欠席
3	國學院大學	教授	田村 学	欠席
4	ふたば未来学園中学校・高等学校	校長	郡司 完	
5	ふたば未来学園中学校・高等学校	副校長	南郷 市兵	
6	ふたば未来学園高等学校	教頭	星 弓彦	
7	ふたば未来学園高等学校	教頭	佐藤 章	
8	ふたば未来学園中学校	教頭	大森 淳	
9	ふたば未来学園高等学校	教諭	林 裕文	企画・研究開発部主任
10	ふたば未来学園高等学校	教諭	齋藤夏菜子	企画・研究開発部副主任
11	ふたば未来学園高等学校	教諭	高野 寛之	企画・研究開発部
12	ふたば未来学園高等学校	教諭	小磯 匡大	企画・研究開発部
13	ふたば未来学園高等学校	教諭	板倉 雄太	企画・研究開発部
14	ふたば未来学園高等学校	教諭	高山 さなえ	企画・研究開発部
15	NPO法人カタリバ双葉みらいラボ	拠点長	横山 和毅	
	高校教育課	課長	平澤 洋介	
	高校教育課	主任指導主事	志賀 勲	
	高校教育課	指導主事	赤岡奈津美	

1 開会（15:00）

2 主催者あいさつ（高校教育課 平澤洋介課長）

3 指定校長あいさつ（ふたば未来学園中学校・高等学校 郡司完校長）

4 説明（学校より）

- （1）令和4年度研究開発実施状況について
- （2）令和5年度以降の活動方針について

5 指導助言（田熊 美保氏【OECD教育スキル局シニア政策アナリスト】）

・一つの学校で、早稲田大学やカタリバと、非常に深いところまで協働をされているところが、ほかの地域でも参考になる。今回ウクライナの件があって、フィンランドなど原発のある地域との話が今年は随分多い。やはりそれぞれの地域には国際研究所があり、日本にも福島国際研究教育機構が誘致されて、世界からの研究者も来られる。ぜひそこの学問領域の進化というところでは、チャンスで

ある。日本では沖縄に大学をと言った時に、そこに様々な研究者が来たというのは、沖縄にとってはチャンスだった。まだそこが高校と紐づけられていないので、まだもったいない。ぜひ福島でこのチャンスを逃さずにいてほしい。

・探究の概念と紐付けのマッピングで、教科と探究の横断をどうするかというところの一手手前まで来ている。一番右側で概念を出したところが、そこと教科が今度は結びやすくなる。探究だとどうしても教えるというティーチャーの部分が欠けてしまうというところのバランスが、教科学習の中で、補完的に両立できる。

・教員の関わり方で、ふたば未来に長くいる教員とそうでない教員の比較したのがよかった。そこから紐解かれる部分が多い。海外ではジェネレーター代わりにデザイナーとかクリエイターと言う。概念は同じだと思うが、教師にどんな変化があったかというところを、もう一步、踏み込むとほかの教員が元気になるような、教員のエージェンシーに関する何か新しいものがふたば未来から出てくると思う。他の国でもそのバランスを見たときに、一人ひとりの生徒でかなり異なるというところに最終的にはたどり着く。生徒のプロファイリングみたいことを海外の教員はよくされている。やはり、一人で抱え込まずに、地域の方、別の教員、カタリバ、大学生などの方々に委ねながら、教員もライフロングラーナーとして成長していく。今、日本では、リカレント教育が流行り出しているが、教員にとってのリカレントは、学び続けるだけではなく、変わり続ける。ぜひこのことも含めてほしい。

・卒業生を資源として活用というのが、循環する学校という事例としてまだ日本ではなかなか出てきてないので嬉しく思う。カリキュラムをきちんと学校でデザインしているのがよい。

・地域へのインパクト評価については、まだまだ日本でも事例は聞いていないところであるので、そこも評価をとり始めているというところに将来性を感じる。

・生徒たちがプロジェクトを立てていくという方向性は、EUでは、かなり多い。福島の郡山高校と大阪の中学校とポルトガルで今まさに生徒たちが自分たちでプロジェクトを立てているものがある。SDGsを一緒にやろうという形ではなく、友達から入った方が良いというパイロット実験をしている。非常に有機的に、生徒が主体で広がっていくというところが、本当に希望が持てる。ウクライナから日本に避難している生徒とつながるパイロットもしている。ウクライナ支援に関心のある生徒がいれば、いろいろリソースがある。

・日本の生徒たちと話をして、最近思ったのが、実は、考え方などが多様な人の中の方が自由で居られるということである。知った仲だと逆に同調圧力を気にしてしまうことがあるので、バラバラの中での合意形成ということがますます重要になってくる。最近、主体的・対話的で深い学びについて、深い学びというところに特化したワークショップには行ったことがなく、この深い学びというところが、まだまだ対話が欠けているところであるので、ふたば未来で行われている演劇教育は、極めて深い学びのところで、参考になる。

・カナダの研究では、先生自身のエフィカシー（自己効力感）、高揚力が高くなると、実は学校全体の生徒のための学力だけではなくて、ウェルビーイングも高まる。コレクティブ・エフィカシーという、いかに集合として、先生方がエフィカシーを高めているかということが先生にとっても生徒にとっても良いという研究がある。自信を持ってください。

・OECDで実施している郡山高校、大阪の中学校、ポルトガルのパイロットでは、中学校の先生と、高校の先生が交じることで、高校の先生が柔らかくなっている。ポルトガルの中でも幼稚園、小学校、中学校、高校が一貫している学校があり、特別支援の生徒も、インクルーシブしているので、その先生とのやり取りだけでも、日本の先生には気づきがある。友達になるところから始めて、もっと気軽な普段着のグローバルな関係性が作れるようにしている。必然的に目の前のコミュニケーションをしたいという気持ちが出てくる。WWLでも、生徒の顔と笑顔と先生方の笑顔をきちんと確保した形の構想であってほしい。

令和4年度福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」
第1回コンソーシアム協議会 記録

日時 令和4年9月6日（火）15：00～16：30
会場 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校（一部オンライン）

【出席者】

No	所属	職	氏名	備考
1	双葉郡教育復興ビジョン推進協議会	主幹兼指導主事	坂本 貴光	代理出席
2	福島大学人間発達文化学類	特任教授	中田 スウラ	
3	福島相双復興推進機構	専務理事	桜町 道雄	
4	福島イノベーション・コースト構想推進機構	教育・人材育成部長	山内 正之	
5	NPO法人カタリバ双葉みらいラボ	拠点長	横山 和毅	
6	ふたば未来学園中学校・高等学校	校長	郡司 完	
7	高校教育課	課長	平澤 洋介	教育次長代理
8	ふたば未来学園中学校・高等学校	副校長	南郷 市兵	
9	ふたば未来学園高等学校	教頭	星 弓彦	
10	ふたば未来学園高等学校	教頭	佐藤 章	
11	ふたば未来学園中学校	教頭	大森 淳	
12	ふたば未来学園高等学校	教諭	林 裕文	企画・研究開発部主任
13	ふたば未来学園高等学校	教諭	齋藤夏菜子	企画・研究開発部副主任
14	復興庁福島国際研究教育機構準備室福島国際研究教育機構・地方創生班			オンライン
15	福島県企画調整部福島イノベーション・コースト構想推進課			オンライン
	高校教育課	主任指導主事	志賀 勲	
	高校教育課	指導主事	赤岡奈津美	

- 1 開会（15：00）
- 2 主催者あいさつ（高校教育課 平澤洋介課長）
- 3 指定校長あいさつ（ふたば未来学園中学校・高等学校 郡司完校長）
- 4 出席者紹介（高校教育課 平澤洋介課長）
- 5 出席者自己紹介
- 6 説明（学校及び担当者より）
 - （1）令和3年度の取り組みについて
 - （2）令和4年度の研究開発実施計画について
 - （3）今年度取り組んでいきたいことについて
 - （4）今回の協議題について
 - （5）復興庁福島国際研究教育機構準備室福島国際研究教育機構・地方創生班より
 - （6）福島県企画調整部福島イノベーション・コースト構想推進課より

7 協議「浜通りの国際教育研究拠点とふたば未来学園中学校・高等学校の協働・共創の形を模索する」について

○ 中田スウラ氏（福島大学人間発達文化学類特任教授）

・機構、県、高校が、どの接点でうまくかみ合うのかが重要である。まだ検討と研究と分析が必要ではないかと考える。機構による出前授業で教育現場と接点を持つ可能性があるが、どう未来創造探究の構造の中にそれを入れ込んでいくかである。中高と機構との連携、8町村あるいは12市町村の義務教育との広がりも視野に入れておかなければならないと思われる。

・学際的に世界から集まってくる研究者の子供達の教育環境は、福島地域ということになる。ウェルビーイングもキーワードとなっているが、研究者の研究環境、生活環境を共に作る地域の子供達、媒介は教育、学校となるので、そこでの生活共同のようなものが相互理解を深めて、福島の実情を生活することによって理解し、研究と教育の課題が何であるのかを理解していくということが、機構としては地域に期待しているとも考えられるのではないかと。

○ 桜町道雄氏（福島相双復興推進機構専務理事）

・シームレスの幅が広い。機構の周りには企業が来る。企業でも研究開発等が行われる。企業と共同研究をするために大学も関わる。ベンチャーの育成も始まると思う。クリエイティブにイノベーションを起こす。ベンチャーも含め、多様な形で展開していくことになる。加えて、街づくりをどうしていくのかも重要なこと。地元から人材を輩出するというので、何らかの形で機構にたどり着ければ素晴らしい。機構の5分野に必ずしも直結しなくても、幅広い分野や視点で考えたらどうか。ビジネスマネジメントや地域マネジメントなど文科系の分野でもフィールドワークをしながら探究して、復興に貢献できれば素晴らしい。広い視点で考えれば、ふたば未来学園の役割も広がってくるのではないかと。

○ 坂本貴光氏（双葉郡教育復興ビジョン推進協議会代表代理）

・機構が浪江町に設立されれば、研究者のお子さんを預かる可能性が出てくることで、様々な子供達への教育を考える必要がある。ICTの活用を含めた個別最適化の学びの必要性を感じる。機構の研究者等との交流によって、理系分野への興味がわいたり、将来、学者になるための道を知ったりすることができるのではないかと。

○ 山内正之氏（福島イノベーション・コースト構想推進機構教育・人材育成部長）

・もう一度、ふたば未来学園の原点に帰り、どんな生徒にしたいかによって、機構を利用しようというスタンスがいいのではないかと。機構における人材育成は、ふたば未来だけではなく、8町村や12市町村、県南、会津まで波及させなければ、福島県に来る意味はないので、まずは、今まで培ってきたものを踏まえて、出前授業や講義、施設見学等を通して、生徒の志や希望をかなえるようなくらいで考えていた方が良くはないかと。

○ 横山和毅氏（NPO法人カタリバ双葉みらいラボ拠点長）

・機構の概要には、高校生による研究助手制度にも触れられているので、これについても検討すべきと考える。ふたば未来学園がこの地域の最高学府となっているので、カリキュラムの中でやることと外でやることの整理が大事だと思う。地域側としては、多様な人々が混ざり合っている中で、お互いを理解する力、思いやる力など対話と協働をしていく力を連携しながら、双葉郡内に育ていきたい。

8 閉会（16：30）

令和5年2月14日
高校教育課

令和4年度福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」
第2回コンソーシアム協議会 記録

日時 令和5年2月14日（火）15:00～16:30

会場 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校（オンライン）

【出席者】

No	所属	職	氏名	備考
1	双葉郡教育復興ビジョン推進協議会	代表	笠井 淳一	
2	福島大学人間発達文化学類	特任教授	中田 スウラ	
3	福島相双復興推進機構	常務理事	遠藤 和人	専務理事代理
4	福島イノベーション・コースト構想推進機構	教育・人材育成部長	山内 正之	
5	NPO法人カタリバ双葉みらいラボ	拠点長	横山 和毅	
6	ふたば未来学園中学校・高等学校	校長	郡司 完	
7	高校教育課	課長	平澤 洋介	教育次長代理
8	ふたば未来学園中学校・高等学校	副校長	南郷 市兵	
9	ふたば未来学園高等学校	教頭	星 弓彦	
10	ふたば未来学園高等学校	教頭	佐藤 章	
11	ふたば未来学園中学校	教頭	大森 淳	
12	ふたば未来学園高等学校	教諭	林 裕文	企画・研究開発部主任
13	ふたば未来学園高等学校	教諭	齋藤夏菜子	企画・研究開発部副主任
	高校教育課	主任指導主事	志賀 勲	
	高校教育課	指導主事	赤岡奈津美	

1 開会（15:00）

2 主催者あいさつ（高校教育課 平澤洋介課長）

3 指定校長あいさつ（ふたば未来学園中学校・高等学校 郡司完校長）

4 説明（学校より）

（1）令和4年度研究開発実施状況について

（2）令和5年度以降の活動方針について

5 協議 「グローバル型」指定3年間の総括について

○ 笠井 淳一氏（双葉郡教育復興ビジョン推進協議会代表）

・8町村とうまく連携ができています。双葉郡の中学校も一緒に取り組んでいるふるさと創造学とも連動しています。教員の関わり型モデルは、小中学校の先生に提示していただくと大変参考になる。新しいゼミ編成の「原子力災害・伝承探究」で「伝承」が入ったところが大変ありがたい。課題は、新しく来る児童や教員にここで行われている学びの意義の共有や継承である。

- 中田 スウラ氏（福島大学人間発達文化学類特任教授）
 - ・ジェネレーターとして、自分の役割を再認識していくというような教員の指導の分析は、大事なポイントである。また、ゼミ編成の学術的な再検討における課題は、ややもすると学問的な専門性で分化してしまうので、課題解決のために専門の力を統合し直す作業が必要である。生徒だけでは到達できない段階まで進化させるということと、教えるということがどういう関係になるのかには悩まれると思う。生徒に教員がどんな関わりをしたのかを実践分析しながら、教員の変容を丁寧に振り返ってみることも、方法としてはあるのではないか。双葉郡の義務教育学校含め小中学校がやりたいことと、かなり重複しており、お互いの役割を果たしあえるチャンスが増えていると思う。

- 遠藤 和人氏（福島相双復興推進機構常務理事）
 - ・研究成果発表会の第2分科会の方に参加させていただいて、多くの方が地域とどうつながればいいのかというところに悩んでいるということがわかった。ふたば未来学園では、8町村との連携で、深いテーマに取り組んでいると感じた。私共は、震災で避難された商工業者が双葉郡で事業を再開する支援をしているが、お客さんがいなくて、事業は順風満帆ではない中で、ふたば未来学園に入っただけでメンターになっていただけだと思う。連携について意見交換させていただければと思う。

- 山内 正之氏（福島イノベーション・コースト構想推進機構教育・人材育成部長）
 - ・素晴らしい生徒が育っているので、学校としては自信を持っているのではないかと。イノベ機構は、双葉郡の8町村の教育長会と連携して、様々な活動の支援をしているが、ぜひともふるさと創造学と未来創造探究がうまくつながると、小中高、そして大学へ向かっての一貫的な教育、福島ならではの教育ができるのではないかと期待している。探究指導は、小論文指導と同様、教員の教材研究の大変さを感じたので、教員が準備する環境を整えることも大事だと思う。さらに、ふたば未来から異動した教員は、その学校で、ふたば未来の経験を生かして探究学習の伝道師となってほしい。

- 横山 和毅氏（NPO法人カタリバ双葉みらいラボ拠点長）
 - ・研究成果発表会の第5分科会を担当したが、教員へのアンケートやインタビューを通して、探究に関わる教員の学びに着目した。主体的に生徒が学んでいく学習とはいえ、どこまで教員が介入しているのかという悩みなどがあることがわかった。実際、それが解消されていくプロセスというのが、日々の教員同士のコミュニケーションなどの小さな会議体だということもわかった。課題解決がされていくと教員の指導法も変わってくる。教員の協働が鍵だと思う。また、探究学習をやったからこそ、教科の時間も非常に大事だという指導観の変容があった教員もいる。課題としては、学校としての体制作りが非常に重要だと思われる。昨日、ふるさと創造学の教職員による双葉郡子ども未来会議が行われ、ファシリテーターを担当したが、とても意欲的にふるさと創造学の現状と課題やアイデアが多く出されたので、来年度に向けて、動ければと思う。

- 平澤 洋介（高校教育課長）
 - ・探究の指導においては、教員のその時、その時ごとの役割があって、手厚い形の指導につながっていくのがよくわかった。さらには、おそらく生徒たちの探究のベクトルの先は立体的な360°の全方位的な方向を向いていると思われるので、教員としての関わり方はこれからも研究していかなくてはいけないと思っている。全国各地から参加者があった研究成果発表会を考えると、ふたば未来学園が全国のライトハウスの存在になりつつあるということは非常に嬉しく思っている。

令和4年度 7期生プロジェクト紹介一覧(2022.10.25プレ発表会時点)

原子力防災探究ゼミ					
探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー
海洋放出の反対運動について考えようプロジェクト	佐藤志保	始まりに交流の輪を	能勢友珠	多頭飼育の現状	佐藤遥香
内容		内容		内容	
<p>"なぜ海洋放出に反対運動が起こるのか？というテーマのもと、今起こっている反対運動について調べる。そこから東電や政府の政策にどんな問題があるのかをさぐり、よりよい形の海洋放出の姿を見つける。そのために、まず、過去に起こった原発に対する海洋放出について調べた。1F,2F,小高原子力発電所の建設に反対運動があったと知り、それについて詳しく書いてある本を読んだ。また、海洋放出は廃炉事業の一環であるため、廃炉について学ぶために「1F 地域塾」に参加した。海洋放出に反対している団体について調べ、彼らが何を懸念して何を求めているのかを分析した。"</p>		<p>私のプロジェクトは神社と交流を軸に活動しています。きっかけは、子供の頃に町の人たちと交流した記憶や、引越越し、そして広野町の人の声を聞くなどの経験をしたことにより地域での交流がその場所への安心感や行動力につながると思ったからです。その安心感や行動力を最近避難解除されたばかりで交流が0に近い、自分の出身地である双葉町で作りたいと思いました。今までの活動としては、双葉町を調べたり、見学に行ったり、神社の宮司さんや双葉でイベントを行っている人にお話を聞き、イベントに参加させていただきました。これからの主な活動としては双葉町の紹介マップや双葉町内での対話イベントを行いたいと思っています。</p>		<p>広野町が猫の保護活動や不妊手術活動をサポートしていることがわかったので、広野町社会福祉協議会へ行き根本さんという方にどのような事を行っているのかを聞ききました。やはり、サポートをしているだけで、活動を行っているわけではなかったためどのような活動を行っているのかは聞けませんでした。ですが、広野町に多頭飼育崩壊になってしまった家があるというのを教えていただきました。3年前にこども園の前にいたたくさんの猫も不妊手術をして数を抑えたことも教えていただきました。今後は、多頭飼育をしていた家を訪問するということを考えています。</p>	
探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー
富岡町に写真を通して何ができるのか	遠藤利沙 遠藤葵	3.11は僕らに何を残したのか	藤原知也	古着を活用	児山虹大
内容		内容		内容	
<p>写真を通して富岡町の町おこしに繋がる探求活動に取り組んでいます。双葉郡の中で津波の被害が大きかった富岡町の、震災前、震災直後、震災後の写真を比較し、分かりやすくマップにしてまとめたいと思っています。そして様々な地域、世代の人にマップを見てもらい、震災前と震災後でどのような改善点があるか、色々な意見を踏まえて考えていきます。最終的には出した意見を意見書として富岡町の役場に提出する予定です。富岡町で起きた震災について知ってもらい、他人事ではなく自分事として考えるきっかけになったら良いと思います。</p>		<p>震災に関しての取材などをさせてもらって母校に授業をしに行くにあたって企画書などを書いたり授業計画を書いたりして、教育実習生のようなことをして、それと同時に将来のためにどのようにしたらわかりやすい授業の構成ができるかなどを考えています。そのために富岡アーカイブミュージアムに行ったり、貴重な経験をされた方々からお話を聞いたりしているところです。この内容を元に授業を構成していき、人に教えるということはどんなことなのかということも学んでいきたいです。</p>		<p>アフリカ西部ガーナの首都アクラのごみの埋め立て処分場で起きている古着問題についてまとめそこから身近にある古着に着眼点を置き去年のクラスTシャツはどうなっているのか、もしかしたら今からクラスTシャツを捨てようとしている人もいるのではないかと考えどうせ捨てるならそのクラスTシャツを回収しなにかに活用しようと思ったので行動に移りました。まずクラスTシャツについてのアンケートを高校二三年生に取り、処分場にいる人はいないかを確認します。今のところはアンケートを集めその結果を見てどうするかを所まで進んでいます、そのアンケート結果で今後どうしていくか決めたいと思います。</p>	
探究テーマ	メンバー				
フードロス減らすためには？	箱崎正義 武田志道 上野来旺 佐藤辰輝				
内容					
<p>料理の際に普段は捨ててしまうような所をどうすれば捨てずに済むかを調べたくさんの人知ってもらうためポスターなどを使い知ってもらい！また自分たちで食堂で残った料理を自分たちで工夫をしてさらに美味しく作り生徒がおかわりできるぐらいのものを作りたいと考えている！PowerPointなどでスライドを作りまずは身近な生徒達に理解してもらえようわかりやすくまとめて伝えたいと考えてます！今までに行ってきたことは広野町にあるお食事処ふたばさんという飲食店にお邪魔しフードロスについてどのような工夫をしました。そこでは動画をとり福島テレビやふるさとシェアというYouTubeチャンネルに放送されました。これからの活動予定はふたば未来学園の食堂で残されている学食を自分たちでもっと食べてもらえるような美味しいものに工夫して加工したいと思っています！</p>					

メディアコミュニケーション探究ゼミ					
探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー
福島県を綺麗にしようプロジェクト	鈴木蒼一郎	福島の魚の魅力を伝えよう	山内永遠 片寄互	障がい伝えていくには。	三瓶竜也
内容		内容		内容	
<p>"福島県のごみを減らすためにどうすればいいのかを考え、行動し、いわき市をはじめとして福島県全体に広めていきたいと思っています。いわき市や郡山などの大きい市はいろいろな観光客が多いのでそう言う人たちがまた来たい綺麗な町だと思おうような街にしたいです。いろいろな人たちやグループに手伝いを要求して、福島県の現状を伝え、福島県全体で考えて県民全員がポイ捨てやゴミの扱いなどを意識することを第一として探究をしようと思っています"</p>		<p>"自分たちが魚を釣るだけでなく、捌いたり、調理をして食べることをメディアを通してみせる！そのためにはいろんな人に見てもらわないといけないのでそれをYouTube、Instagram、tiktok等のSNSを通してだんだん認知していただくことをまず目標としています！それにより福島県外の方にも風評被害を受けることなくと思うので頑張りたいです！！！！"</p>		<p>"まず、フィギュアスケート場についての探求をやってきました。アクションプランとしては、電話で質問をしました。少ししか質問できなかったのですが、いい経験になりました。ですが、スケート場の場所が遠くて探究していくにあたって不可能だともおりました。なので、自分の障がいについてもっと調べたいと思いました。障害について様々な種類について調べた。今後に向けては、障害について話し合う「きやべつ」の葉っぱに参加していきたいと思います。また、小さい頃お世話になった施設にお邪魔していきたいと思っています。目的としては、自分と同じ障がい者を身近に感じたい、気持ちに寄り添っていきたくと思いました。"</p>	

探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー
広野町、欧米料理少なくて？！	菅田風之	絵を欲しい人に提供する	政井蒼太	韓国の美容法を使って自分に自信をもとう！	篠原真悠子 先崎陽菜
内容は 私は現在、探究活動において欧米料理をテーマに活動しています。欧米料理といえば、ピザ、ハンバーガーなどが思い浮かぶと思います。しかし、今の現状、サイゼリヤなどといった欧米料理は広野町に見当たりません。そこで私は広野町に欧米料理を広めたいという大きな目標に向かっており、日々取り組んでおります。まず私は、キッチンカーを使って広めたいと思っております。まだ、キッチンカーのことをよく知らないのですが、来週の土曜日にキッチンカーを行なっているすえつぎCafeさんへの訪問をする予定です。	内容は 絵を必要とする人に絵を提供するポスターや専用のネットアカウントを作り宣伝をする。ですがネットから絵を拾ったり写真で済む時代なので、あまり絵を必要とする人はあまりいないと個人的に感じたため同時進行で、『待つ』ではなく自分から絵を描き、町のイベントや行事で見てもらい興味を持ってもらう。最終的には絵で町の活性化や町の明るさに少しでも貢献できればと思います。	内容は 韓国の美容法についてのテーマで行ってそのテーマにしたいと思ったきっかけがもともとK-POPや韓国が好き、韓国のコスメについても詳しく知りたいと思いこれまでアンケート作成を行い、自分の悩んでいる部分や使っているコスメなどを学年の人達に答えてもらいました。そのアンケートを行うことで自分が思っていた事とは違う意見や考え方が得られることが出来て自分だけでは視野が広がらないことや色々な意見が大切だということがよく分かりました。			
国際交流で世界を見る	小林明日美	クワイエット×〇〇	大津怜奈	理解されにくい人とどう関わればよいか	齋藤 菫
内容は 私は最初、海外と日本の教育についてを調べる探究にしていた。そこで留学に行ったルールメイキングのイベントに参加したりしました。そこでもっと国際交流を増やしたいという教育だけでなく多方面から海外について調べたいという思いが強く、海外と人と交流する楽しさを知ってもらいたいという思いが強く、国際交流を増やすには？という問いが生まれました。この探究をすることでまずは学校で国際交流を行い生徒を含めた皆さんの人に国際交流の大切さと楽しさを伝えたいと思っています。その他については後々考えます。	内容は 何かを作る、と地域の事、勉強の事。大きく広げればSDGsに関連するものを何かと組みあわせながら作ることでより分かりやすくなるようにしていこうとしています。具体的には、まだハッキリとは決まっているとは言いがたいですが、地域の歴史を絵を描くことで動画にして分かりやすく表現したり、SDGsとゲームを組み合わせてSDGsに興味のない層が少しでもSDGsに興味関心を寄せられるように出来ればと考えています。	内容は きっかけは、兄弟や身近な人に発達障がいやダウン症を持っている人がいて、そういう人と関わる機会が多いから。また、障がい者に対する誹謗中傷をよく見かける。誹謗中傷する人は、障がいを持っている人をよく理解せずにいるのでは？見た目では分かりにくい障がいを持った人とのように関わり、存在を広めていくべきかを探求しようと思った。本で発達障がいやダウン症について概要をよく調べた。アンケートを作りこれから実施。発達障がいやダウン症の概要を学んだ。(後にアンケート結果をまとめて、分かったことを発表する。) 今後は、アンケートを基に今後の活動を定める。障がいを持っている人と関わりを持つ方にインタビューをする。障がいを持っている子と関わってみる。			
表現するファッション	脇山 果子	理解されにくい人とどう関わればよいか	齋藤 菫	cafeふう売上あげあげプロジェクト	遠藤 果穂
内容は 私はコムデギャルソンやリュウノスケオカザキのファッションショーレポートを見てデザイナーさんがファッションを通してジェンダーレスを訴えたり、自然や形のない祈りを表現しているということを知りました。それを知った時すごくいいなと思いました。元々ファッションが好きでしたがファッションを通して自分の考えや訴えたいことや身の回りの環境を伝えられるなんてすごく魅力的だと思いました。そこから私もファッションを通してなにかを伝えたいと思いました。それで「表現するファッション」という私の探究が始まりました。私にはまず、表現するとはなんだろう、という疑問が湧いてきました。そこで「13歳からのアート思考」という本を読みました。ここから得られた新たな考えは自分だけの物の見方を大切にすること、表現するため道具は手段にすぎず、伝えることが出来るならなにを使っていいかということ、そして美術展にも行きました。4つの美術展に行ったのですが一番心に残っているのはChim+Pomのバビースプリング展です。ここではChim+Pomメンバーのエリイさんの生き方と人生を知りました。作品のひとつにただの潰れた空気がありました。これを見た時、え、これも作品なんだ、と思いました。それで新たな疑問がうまれました。「作品と作品じゃないものの違いとは」という疑問です。そしてこの疑問を解決すべく多摩美術大学の卒業生の方とzoomでお話をしました。その方からは作品になるかならないかは、言語化できるぐらいの自分の思いや考えがあるかどうかだと教えてもらうことができました。そして表現することはアウトプットが大切だと言われたのでどんどん実践に移りました。自分は、身近にあるけど震災を通してさまざまな見方をされている「海」をドレスで表現したいと思っていたのでまずデザインしてみました。いい感じに描けたのでどんどん作るということでも進んでいきました。今はドレスの上の部分まで完成しました。これからドレスを完成させてパンフレットを作りたいです。	内容は “【きっかけ】 1、兄弟や身近な人に発達障がいやダウン症を持っている人がいて、そういう人と関わる機会が多いから。 2、障がい者に対する誹謗中傷をよく見かける。誹謗中傷する人は、障がいを持っている人をよく理解せずにいるのでは？ ↓ 見た目では分かりにくい障がいを持った人とのように関わり、存在を広めていくべきかを探求しようと思った。 【活動内容】 本で発達障がいやダウン症について概要をよく調べた。アンケートを作りこれから実施。 【分かったこと】 発達障がいやダウン症の概要(後にアンケート結果をまとめて、分かったことを発表する。) 【今後の活動】 アンケートを基に今後の活動を定める。 障がいを持っている人と関わりを持つ方にインタビューをする。 障がいを持っている子と関わってみる。 【新しい疑問】 診断をしている障がい者と、診断をしていない障がい者の方の区別や関わり方をどうすればいい？”	内容は “この探究のテーマにしたきっかけは将来カフェを経営したいからです。2年生になってからカフェチームに入り、cafeふうが赤字というのを聞き、だから売上を上げたいという目標ができたので、このテーマにしました。私が行った解決のためのアクションは2つあります。1つ目は職員室にブックボードを設置したこと。よく先生にカフェが何時から空いているのか分からないと言われます。だからブックボードにカフェの営業時間や一言を書くようにしました。チラシや新作商品の情報をかくと評判がよく先生がさらにカフェに来てくれるようになり売上に繋がりました。2つ目は動線の確認です。お客さんがどの道を通ってCafeふうに来てもらっているのか分からなかったため、事務室の隣の入口に看板と営業時間が書いてある紙をおきました。看板にはこの看板をみてCafeふうに来てくださった方はシールを貼ってくださいと書き今データを取っています。営業時間が書いてある紙はすぐなくなってしまうので、今後はカフェふうがある場所を分かりやすく書いておきたいと思っています。ふたばワールドに出店したアクションでは、始まる前は雨が降っていたため全く売れないだろうと思っていた。しかし始まる前中中には焼き菓子売り切れになり、飲み物は3種類売り切れしました。そこからわかったことは、看板を大きくし真ん中に置くことと飲み物が沢山売れるということです。午前中は全く売れなかったのですが焼き菓子売り切れスペースが空き、飲み物の看板を真ん中に置いたところ、お客さんが近づいてきて買ってくださる人が増えました。また、コーヒーを売っているお店が少なかったためアイスコーヒーが沢山売れました。Cafeふうは日によって営業時間が違うためインスタのQRコードなどが書かれた紙を持っていくことでお客さんが多かったです。新たな仮説はふうブレンドコーヒーをその場で入れて売ったらどうなるかという事です。ふたばワールドではコーヒーのドリップバックしか売っていません。アイスコーヒーをふうブレンドだと思っている方や味が分からないから買わなかったお客さんがいるように思います。今度ならSUNフェスに出店しふうブレンドコーヒーを売るのでその時検証出来ればと思います。自分の考え方の変化は自分から行動するのが苦手だったけれどカタリハの方達と仲良くなってからは、ライブや探究のイベントとかに参加したり探究に向けてカフェなどでお手伝いをしたりすることが楽しくなりました。今後の解決のためのアクション計画は、休日のカフェ営業です。平日カフェに来れないお客さんがいるので、休日にカフェ営業をすることで知名度や売上をあげることが出来ると思います。そして売上のデータを分析していきたいなと思います。”			

探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー
伝説、神話、伝承で人を呼びこもうプロジェクト	尾内寿人	福島の水の安全性を広める【仮】	猪狩拓希	みんなが積極的に英語でコミュニケーションをとる世界を作る	木村遥人
内容		内容		内容	
"伝説、神話、伝承を詳しく調べつつ、現地におもむき、その地の賑わいについて知る。その後、賑わっているところと賑わっていないところを調べ、どうすればひっそりとしたところを賑わうようにできるかを考える。そして、その考えを、より明確に、より現実的に、わかりやすくまとめ、その考えを、発表し、人を呼び込むことができるかどうか、他の人の意見を調べ、その意見に合わせて、考えを変える。"		"東日本大震災後に福島の水は買いたくないといった風評被害がネットの記事で多く見られるようになりました。原因は放射性物質です。震災から10年がたち風評被害は少しずつ減ってきました。しかし、処理水を海に流すという決定により再び風評被害は広まってきました。そんな福島の水評被害を無くそうと思い今回の探求をやってみようと思いました。これまでやってきたことはネットで福島の水評被害について調べ、原因を探りました。また、富岡廃炉資料館という場所に行き、処理水の海の生き物、人体に与える影響について調べました。今後の活動としてはどうやって安全ということをみんなに伝えるかを決めていきたいと考えています。"		"みんなが積極的に英語でコミュニケーションをとる世界を作る"という私の探究テーマに1歩近づくために、11月12.13のbeyondキャンプに向けて主催者の野地さんと話し合いをした。その結果11月は参加者として参加し2月にも同じキャンプがあるのでその時に私がレクリエーションとして実際に英語でコミュニケーションをとる楽しさを伝えるためにちょっとしたゲームで交流することをしようと思っている。その後は、英語に関心がない人達も英語でコミュニケーションをとる楽しさを伝える。それで、楽しいと思ってもらえるためにこれから色々考えていく。"	
探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー
演劇で地域を笑顔に	佐藤里奈	アロマオイルで賑わう地域に	上田大雅 佐藤玲音	政治への関心	鴨川絃音
内容		内容		内容	
これまでアリオス演劇部U30に参加してワークショップを行ったり、富岡町で行われた演劇キャンプでミュージカルについて学んだりした。また、語り人育成教室交流会で自分がワークショップを運営する準備をしている。そのワークショップを運営するために事前に打ち合わせなどをした。今後は、これまでに行ったアクションを生かして自らが主催者となり地域交流をもっと増やしていきたいと考えている。		マイキーワードは「特産品」でこのマイキーワードに設定した理由は、地域の特産品を使って双葉郡をPRして地域に来てくれる人を増やして、多くの人で賑わう明るい地域にしたいと思ったからです。地域の特産品を使って作るものはアロマオイルにして、その理由は日渡先生から3年生の先輩がアロマオイルを使った探求をしていると聞いて興味があり、特産品を使って簡単に作れるものだからです。ゴールは、イベントをして地域の人の交流の場を作ったり、インスタグラムなどSNSを使って地域の魅力を広めたりして、たくさんの人で賑わう明るい地域にしたいです。		周りの人たちの社会に対する関心・知識が足りないと感じていた。社会に直接かかわることができる政治にはもっと多くの人が関心を持ってほしいのではないかと。自分は政治家個人の魅力を知ったことがきっかけで政治を学んだり考えたりするようになったため、周りの人に「親しみやすく」「正しい」切り口で政治家について知ってもらうことはできないか。→政治家紹介シートを作成し、皆に見てもらってイベントを開き、関心が高まったかどうか確認する。	
探究テーマ					メンバー
少年法とわたしたち					菅家菜々子
内容					
私は夏季休業まで「未成年の実名報道は少年犯罪の抑止力になるのだろうか」というテーマのもと活動してきた。しかしながら探究を進めていくうちにいくつかの気づきや学びがあり、それを踏まえてテーマを再設定した。以下がテーマの概要である。					
<p>1) 前テーマの設定理由</p> <p>①被害者と加害者の権利が対等ではない</p> <p>刑罰ではなく更生を目的とした少年法の目的、加害者の可塑性を考慮した裁判が行われる。かつては被害者家族又は遺族に関する余地がなかった。そのため「武蔵野」が代表を務める「少年犯罪被害者当事者の会」をはじめ多くの方々の地道な努力の積み重ねにより少年法の改正が行われてきた。しかしながらこれらは裁判時中のものであり、判決後のケアが進んでいないのが現代社会における課題である。例をあげると、被害者の顔写真や氏名がメディアで公表されるにもかかわらず加害者は公表されない、被害者家族は地域の目にさらされ住む土地を追われる、事件の精神的苦痛など多くの問題がある。一方で加害者側もSNSの特定騒動や社会復帰の困難、少年院を出た3人に1人の割合が再犯するという問題が山積している。</p> <p>そのような現状から、私は強い抑止力があることで双方の権利を保護するのではないかと考えた。実名報道をすることによって第三者の勝手な介入を防止し、少年法従来の加害者の更生という目的を達成できるのではないだろうか。</p> <p>②「18歳から成人」の意味</p> <p>民法が改正され18歳から成人となり、クレジットカードの利用や選挙権など多くの権利を取得した。それにより少年法も特定少年という枠組みを作り、実質的に実名報道が可能となった。しかしながら個人的には政府は躊躇しているような印象を受けた。18歳に責任能力を認められ自由や権利を与えられるならば、なぜ少年法において特別な枠組みがつけられるのだろうか疑問に思うからである。「18歳から成人」その意義を私たち高校生が考える必要性があるのではないだろうか。</p> <p>2) 課題解決のためのアクション</p> <p>①実名報道に関するアンケートの実施</p> <p>夏季休業中オーストラリアの語学学校に短期留学したため、その学校でアンケートを実施した。ポスター等の掲示が承認されなかったため、私が1人1人に足を運び回答を求める形式となった。回答数は15人と少ない数ではあるが、回答者それぞれとの対話の時間を確保することができた。</p> <p>アンケートをまとめた気づきは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの背景が異なることから実名報道には多種多様な意見があり、一概に賛成反対で決められるものではない。実名報道に賛成とするならば、範囲の明確化を定める必要がある。 自身が被害者となる場合は加害者の実名報道を望むが、立場が逆転すると望まないという意見になる。 加害者になる想像をしたことがない。それだけ現代社会が充実している証明となると同時に犯罪意識の低下がある。 <p>②「わが国の少年法の理念 木村裕三」等の論文を拝読</p> <p>少年法の成り立ちや欧米諸国との違い、これまでに問題視され大きくメディアに取り上げられた少年犯罪などを拝読した。</p> <p>3) 夏季休業までの活動反省</p> <p>調査を進めていくうちに実名報道と少年犯罪の複雑さを実感し、今の未成年者にはこの課題を解決するには力不足であると考えた。この探究を進めていくためには高度な法律(少年法以外にも)の知識が求められ、現段階ではそのような知識不足が明確であった。そして法律の勉強を継続したとしても、このテーマに必要な量を身に着けることは大変難しい。1つの少年犯罪に焦点をあてるという案を考えたが、この行為自体が私が危惧する被害者加害者間の問題に該当する可能性が高いと考えた。当事者間の問題に関与することを一概に悪いとは言えず、誰にとってもその権利はあると思う。しかしながら私自身は関与するべきではないと判断し、その選択に後悔することはない。またこの探究は自身の知的好奇心の要素が多く、社会的貢献性が欠如している。自身のための探究であり、誰に何を貢献できるかという面を考えると曖昧なものばかりであり、それでは探究活動本来の意味が失われてしまう。</p> <p>以上を踏まえテーマの再設定を行った。</p> <p>4) テーマ再設定にむけて</p> <p>テーマを考え直すにあたってまず行ったことは、少年犯罪の現状把握である。六法全書や警察庁の犯罪白文書等事実に基づいた資料を読み、理解を深めた。そして少年犯罪を問わず、犯罪や法律がそもそも日常生活と遠い世界にあるということに気づいた。意識してみれば法律は身近なものにあり、何をやるにおいても絡んでくるものである。犯罪も同様について私たちが被害者になるのか、あるいは加害者になるのか全く見当がつかない。しかしながら興味や意識がなければそれらの事に関わらない人が多いただろう。法治国家の日本において一部の人のみが知識を持つ状態は大変危険である。</p> <p>そして少年法においても同様に適用される私たちは全く内容を知らない。それに加え、少年法改正時には子供の意見表明権がなく、反映されない。この課題を解決するためにはまず少年自身が少年法について正しい知識を持つ必要がある。そのため私はもって少年法が身近な存在になるような活動をしたと考えた。</p> <p>現在のテーマ『どうすれば少年法を身近な存在にできるだろうか』</p> <p>5) 現テーマでの課題解決に向けたアクション</p> <p>①「少年のための少年法入門 山下敏雄他」を拝読。</p> <p>裁判までの流れ等の少年法の基礎知識を得るために活用させていただいた。</p> <p>この本は私の探究テーマと似たような目的で作られたため、どうにか山下さんと関係を築けないだろうかと模索している。</p> <p>②菅波香織さんとの対話</p> <p>10月11日、18日の総合的な探求の時間(6.7校時目)</p> <p>このフォーム記入時には行われていないため、予定日を記入する。そこから得た学びはプレ発表会までにはまとめておく。</p> <p>6) 今後の活動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 少年法に対する印象調査(Googlefoamのアンケート) 菅波さんとの対話を増やす カードゲームの製作 					

再生可能エネルギー探究ゼミ

探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー
スポーツしながら町をキレイに	門馬聖弥	生態系が支える自然環境	高岡龍助 大越斗輝	葛尾村に人を呼ぶために～葛尾村の自然とツーリングを活用して～	松本葉奈
内容		内容		内容	
<p>スポごみの計画、開催し身体を動かしながら楽しく町をキレイにする。そのごみを分別回収する。</p>		<p>"学校の校内にある使われていない土地を利用して、池を作り、間近で生態系を観察してきました。あさみ川で生態系を観察してきました。多様な貝類、カワムツ、オイカワ、アユなど様々な生態が見られました。また、学校の土地の環境はとてもひどく、ミミズが見られませんでした。ミミズがないということは、かなり重大です。土の循環ができていないのです。そら木も育たないわけだし、葉をつけないだけです。"</p>		<p>震災前まで住んでいた葛尾村の探究をしています。今の現状として、葛尾村の人口は400人です。そのうち、葛尾村に住んでいるのは200人程度です。後期高齢者地域です。人口の半分以上が75歳です。私はテレビで、葛尾村がなくなるかもしれないのを見ました。自分が住んでいた村がなくなるのは、寂しいのでこの探究で多くの人に葛尾村を知ってもらいたいと思っています。葛尾村の魅力は自然です。その自然と自分の好きなバイクを組み合わせで探究をしています。</p>	
探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー
川内村の自然はどのようにして守られているのか～川内村に人が来るには～	若松美咲	海と人が上手に繋がるために	神山美咲	福島海の魚(仮)	高野 睦斗 岡崎 純晶 三瓶 幸一
内容		内容		内容	
<p>今のところのテーマは川内村の自然はどのようにして守られているのか、川内村に人が来てもらうためにはの二つを考えていますが、あまり具体的なアクションはできておらずテーマも正直迷走中です。なぜこういうテーマにしようと思ったかという、最初は川内村が好きということで何が好きなかを考えてみたときに、一つが自然だったので川内村の自然は何か守られている秘密があるのかなと思って、テーマに挙げてみました。もう一つのテーマとして、私は川内村に人がたくさん来るようになってほしいので川内村に人が来るためにはどのようなも頭にありました。アクション内容としてはネットで環境保全の条件や方針、川内村出身の志賀風夏さんの元へ行き、いろいろなお話を聞くところまでしか今の段階ではできていません。</p>		<p>"私は防災や環境保全、土地活用の観点から人と海の繋がりを見つけ直し、より良いものにしていきたいと思い、この探究を行っています。自然環境に興味があったことや、私自身が現在の災害対策への疑問点や不安感があったことなどから、このテーマを制定しました。請戸地区などの、津波の影響で災害危険区域に指定されている地域に興味があるのですが、課題が大きすぎるため、現在は身近な問題である広野町の防災や自然環境の変化についてを調査しています。今後行いたいアクションは、寮内の災害時の対処の調査・改善、双葉郡の土地の現在の使われ方と今後の方針の調査などです。"</p>		<p>"双葉郡の海の魚について調べて漁協 釣り船経営者など話を聞き実際に釣りを体験してみたいです。魚好き・釣り好きの人に広めていき、双葉郡の魚に興味を持ってもらう 双葉郡の活性化につなげる海の魚を上げたい。魚を知ってもらいたくさんの人に食べてもらいたい。そこで問題として掲げるのは汚染水の放出についても漁協の方や市場の人たちの話を聞いたリインターネットや漁港に行き調べたり考えたい。</p>	
探究テーマ	メンバー				
数字からわかる世界の課題	横田彩音				
内容					
<p>私は"星"の探究から"数学"を使って"SDGs"の理解を深められるような探究にガラッと変えました。まず自分は何が好きなのか、どんなことだったら続けられるかを考えたとき"数学"というワードが出てきたことがきっかけです。また、私はドイツ研修に参加していて、そこで"SDGs"の重要性をすごく感じたため2つのワードに決めました。そこで1人1人のSDGsは1人1人の意識が大切、それを変えるためにはみんなが世界の課題を理解して身近に感じなければならぬと思いました。そこで身近な課題を数値化して理解してもらおうという探究テーマにしました。この探究は決まったばかりなのでアクションはまだ行っていません。アクションの予定としては、ついこの前ラポでSDGsの本を見つけたので読んでみたいと思いました。また、数値化する案として、ふたば未来学園はSDGsを意識している学校だから、他校とどのくらいの違いがあるのか(節電量、ゴミ分別、紙の利用etc)それは一人当たり〇日分の〇〇に値するなどをしたいと思っています。そうすることで小さな行動も社会問題解決につながる、他人事ではないということが伝わるのではないかと考えました。</p>					

アグリ・ビジネス探究ゼミ

探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー
大熊町のいちごを使って、風評被害の払しょくを	宍戸涼果	広野のお米を使って	橋本ゆきな	come to FUTABA !	佐藤愛心
内容		内容		内容	
<p>“私が、このプロジェクトにした理由は私自身がいちごを好きなこと、大熊町の出身ということもあり、大熊町のためになにか私が力になれることがないかと思っていました。そこで、大熊町について調べてみると、いちごに力を入れていることを知りました。大熊町のいちごを使い商品販売をすることで、大熊町に対する風評被害の払しょくといちごのPRIに繋がるんじゃないかと考え、このプロジェクトを始めました。</p>		<p>探究テーマは元々小麦アレルギーの人でも食べれる米粉パンを考えていました。しかし、1回作ってみたところ全然上手くいかず悩んでいました。先生に相談したところパンじゃなくて他の食べ物でもいいのではないかと聞かれました。そこでお煎餅はどうかと相談したところお煎餅を作る人はあまりいないという事だったのでお煎餅に決めました。元々小麦アレルギーをテーマにしていたので広野のお米を使ってみることにしました。フロンティア広野さんに相談して1kgお米を無料で分けてもらえることになりました。実際につくってみたところ美味しく作ることができました。改善しないといけなところがあるのでこれから改善していきたいです。</p>		<p>“双葉郡にはおいしい食べ物や果物がいっぱいあるのに、関わらず特産品が少なかったり、風評被害で食べられてないと思われ風評被害を改善するため新しい特産品を作り、広めたいと思いました。まず私が目につけたのは檜葉町です。檜葉には小学生のときによく遊びに行っていてそれで何か恩返しをしたいと思いいこのプロジェクトを始めました。私は檜葉町の新しい特産品でさつまいもをPRしたいと思いました。</p>	
オリーブで広野に平和を	亀岡知広	美容で食料廃棄物をへらそう	新妻怜実 餌取琴羽		
内容		内容			
<p>広野のオリーブを使ったお菓子や料理を調理し、その調理したものを販売したり、レシピを記録して、それを様々な人達に見てもらいオリーブの様々な魅力を伝えていく過程で、新しいオリーブの活用法やオリーブを広野でも栽培しているという事、なぜ広野でオリーブを栽培するようになったのか、また、オリーブには気候変動の対抗効果がとても高いという特徴があり、オリーブの畑にその栽培地域の動植物が生態系を築いたり新たな植物種が発見されるなど、環境においても好影響を与え、日本においてもその環境に与える影響が評価され、持続可能な開発目標としてSDGs推進本部が設置されるなど、SDGsにも関わりのあるということにも興味を持ってもらえるように取り組んでいます。</p>		<p>私たちはおからの食糧廃棄物を減らすことを考えました。おからは美肌やがん予防になったりして美容にも特化した食品だとも思いました。そこで私たちはおからを使ったおからグミを作ることになりました。なぜグミかというとゼラチンは潤いや弾力のアップ、シワ改善などの美肌効果があることがわかりました。作ってみた結果まず私たちはおからを入れないでグミだけを作りました。メニュー通り作りましたが上手く作ることが出来ませんでした。失敗点は硬さが柔らかすぎるのと味がどうしても薄くなってしまふことです。</p>			

スポーツと健康探究ゼミ

探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー
This is football	赤津陸 岩崎翔哉 爲我井運磨	怪我ZERO	川田百華	日本野球史プロジェクト	尾島健太 佐藤一之成
内容		内容		内容	
<p>僕たちがプレーするふたば未来学園グラウンドはプレー環境はとても恵まれているが観戦するという面ではあまり整っていない駐車場からサッカー場までが遠かったり、まずふたば未来学園グラウンドがあることを知らない人が多く、町のみならずと繋がってなく、あまりサッカーを好きな人が地域にいないんじゃないかと思いい、この環境が整ったグラウンドを自分たちだけで使うのは違うのではないのかなと思いいこの探求をやろうと思いいました。そこで出てきた観戦する面での課題を解決していき、地域の人から応援されるチームというチームの目標にも繋がると思いいしたのでこの探求をしました。</p>		<p>私達は怪我で苦しむスポーツ選手やスポーツをやっていない人でも怪我で苦しむ人を少なくしていきたいと思いいます。そして軽い怪我の応急処置などの悪化を防ぐための知識や、その怪我にならないようにするストレッチやトレーニングなども知ってもらいたいです。なぜなら自分が高校1年生の時に腰を痛めてしまって、結構酷い状態だったので半年ほどバドミントンができない時期がありました。その時は1日1日苦しくて自分だけがバドミントンができていない状況で本当に毎日が嫌でした。そんな思いいをして欲しいないと思いいてこのテーマを設定しました。</p>		<p>“欧米発祥の異文化競技であるbaseballというスポーツが江戸末期に日本に渡った。バスケ、サッカー、ゴルフetc…数々の異文化競技がある中でこのbaseballという競技は『野球』と改名され、なぜこの極東の小国で国民的競技となりうるまで根強い人気を誇ったのだろうか。そこまでして我々日本人を突き動かす、感動させる事の本質を持つこの競技の本質とは。我々はその要因や真髄に近づいて探求を進めた。”</p>	
アスリート“極”	金土啓悟 渡部雄大	スポーツ貧血、無月経	村上七生	世界の羽ばたこうプロジェクト	須藤海妃 堀小雪
内容		内容		内容	
<p>僕達の通っているふたば未来学園のある双葉郡は、震災によつての風評被害がまだ続いている。その中で僕達はサッカーを今までやっており、自分達のやっているサッカーと、双葉郡を繋げてなにかできないかと考え、このアスリートの補食という探求をやろうと思いいた。サッカーをやるにあたって様々な補食があるがなにが適切なのか、どのタイミングがいいのかなど詳しく分からなかつたため、それを調べたいと思いい、その調べた補食を双葉郡とかけあわせて、双葉郡の食材でアスリートに適切な補食をつくれるのかと思いいこのテーマにした。</p>		<p>“スポーツ貧血、無月経のことを知り、アンケート調査をして、その結果をもとにして一人一人の考え方や付き合い方を参考にして、自分の体で試して、その結果をもとに、自分自身のたいげんで、悩んでいる人たちと共有していきたいスポーツ競技で最高のパフォーマンスを発揮できるような環境、知識をひろめていきたいと思いいます。</p>		<p>“今現在は、オリンピックや世界大会の結果を見て海外選手の方が強いことがわかります。日本人選手(私たちが)海外選手に勝つためにはどうしたらいいのかわかりませんが、海外選手の特徴を調べ、実際に海外の大会で勝つためにこの探求を始めました。それを調べることで海外選手の長所や短所が分かったり、自分のレベルアップにも繋がると考えています。バドミントン部のmottoでもあるWORLD STANDARD、世界基準。世界でも戦える選手を目指して行きたいです。インドネシアのコーチに聞いたり、アンケートを取ったりして世界選手の特徴や練習について調べていきたいと思いいます。最終的に海外の大会で勝てたらいいと思いいます。”</p>	

探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー
障がいを持っている人との交流場所を作りたい！	阿久津ひなた	SKAメソッド	阿部 隼平 栗原 七瀬 鈴木 拳心 郎	スポーツブランドを元に地域を盛り上げる	十文字 里沙 齋藤 優月
内容		内容		内容	
障がいを持っている人も運動が嫌いな人もみんなが色々なスポーツに興味を持ってくれたり、スポーツをやりたいくないやスポーツを苦手だと感じてしまう原因を明確にし、どうしたら改善できるのか、どうしたら楽しんで運動できるのかなどを考え、スポーツや運動のプラスな部分を発表することで、より運動を好きになってくれたり、苦手な人・嫌いな人・みんなが楽しんでスポーツをしてくれたり、普段の体育の授業がいかにスポーツに触れ合う機会を増やし、よりたくさんの方がスポーツに触れ合う環境作りをしたいと考えてます。		僕たちはサッカー部に所属していて3人共ロングキックができなかったのでのこの探求をはじめました、まず自分たちのフォームの動画を撮り、ロングキックがうまい人とのフォームを比較して自分たちのフォームと何が違うのかを調べました、次にサッカー場に行きロングキックのフォームの細かい部分の改善をしてどれぐらいボールの距離が伸びたか調べました。そして自分たちが撮ったロングボールのフォームの動画を見てもらい誰でもボールが蹴れるようになったか調べる。		「スポーツブランドに協力していただき双葉郡でイベントを行いたいと考えています。スポーツブランドに協力していただくために、お互いwin-winな関係になるような企画を考え、提案します。また双葉郡のイメージがどう変わったかを知るためにイベント前後の双葉郡のイメージについてアンケートを行いたいと考えています。協力していただくスポーツブランドは普段ユニフォームなどでお世話になっているアンダーアーマーを考えています。」	
探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー
食事×高校生アスリート	阿部 学斗 三本 菅弘 憲	体づくりプロジェクト	川島 詩音 箱崎 龍聖 瀬谷 蒼羽	ハートの強さで勝利をつかめ！	石岡 空来
内容		内容		内容	
自分たちは、寮の食事について疑問や不満を持ち改善するためにこの探究テーマにしました。この、不満や疑問は自分たちだけでなく他の寮生アスリートも同じ意見が挙がっていたため、周りの寮生アスリートや自分たちのためにも役立つ理由を感じました。自分たちアスリートは厳しい練習を行い、補給として食事は大事な部分となっている所だと考えます。その中で味や見た目が悪く、食欲がそそられないため残飯の量が考えられない様な事態になっていました。そのため、自分たちは今の食事は栄養が足りていないと感じ、周りでアスリート食を提供している料理人などにインタビューしました。また、寮生が求めているものなどもアンケート調査を行い「アスリート食×高校生が求める食事」と言う題材でパワーポイントにまとめ、寮の食事を提供しているLEOCさんにプレゼンをします。許可ができれば、LEOCさんと一緒にメニューを考え寮に提供するというプロジェクトです。	「野球に必要な、筋力を向上させ、飛距離アップ、瞬発力アップ、球速アップを目指す。柔軟性を高め、関節の可動域を広げ、ちょっとした動きで腕や腰の痛めるリスクを減らす。ケガを減らし長期離脱を防ぐ。パフォーマンス向上によっての体への大きな負担を減らし、レベルアップ、パフォーマンスアップしていくために、継続的にトレーニングなどを積み重ねていくこと。ケガをできるだけなくす。自分自身の動きも見つめながら、パフォーマンス向上に取り組む。」	「私は高校生になってメンタルの状況が不安定なことが続いており、元気に明るく過ごせる時間が少なくなっていました。そんな自分を変えたくて今回心理学やもっと自分のことを知りたい！と思いこのテーマを設定しました。今は毎日元気に過ごすというのが目標ですが、バドミントンもやっているのでも今後はメンタルが競技やパフォーマンスにどう関係しているのか探究し、競技力アップにも繋げていきたいと思っています。」			
探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー
アスリート食について	北條 杏華	怪我なしプロジェクト	手島 葵 岡田 琉音	体の強化をするためにはどうしたら良いのか？	谷岡 大后 江田 和博 山北 奈緒
内容		内容		内容	
「目指している職業と結びつけられて、自分が運動をしているので関連したもので探究を進めることができるからこの探究テーマにした。サッカーをする人のプレーに支障がでないような、食生活について調べてベストパフォーマンスでプレーできるようにする。そのために、必要な栄養素について調べて身近なサッカーをしている友人にプレゼンする機会を作りたいと考えている。自分は寮生なので、自作の献立を寮食に取り入れたい。」		「私たちは、前に怪我をして、練習できなくなる期間があり、とてもくやしい経験をしたので、ほかの人には同じ経験をしてほしいと思い、この探究テーマにしました。私たちは、野球部とサッカー部に所属しているのでその二つの部活に共通する怪我について、詳しく探究していきたいと思えます。そのため、アンケート調査やアスレティックトレーナーの久保さんにインタビューをしたいと思っています。」	私たちの探究のテーマは「体の強化をするためにはどうしたら良いのか？」というテーマです。そのテーマの答えゴールに近づくためにまずは、行動をおこしていこうと思いインタビューを何人かの人たちに協力していただきました。最初は毎日食べるご飯のことから調べていくことにしました。ご飯は栄養などを一番摂取できるからです。インターネットなどでも調べはしましたがここふたば未来学園には栄養士さんという一番食に詳しい人がいたのでインタビューさせていただきました。インタビューをもとに自分たちなりにまとめました。次に実際に選手として活躍している人にインタビューをさせていただきました。そのインタビューをさせていただいた人は3人いて一人目は今世界で活躍していて世界ランク2位の桃田賢斗選手、二人目は桃田選手と同じ企業に所属していてダブルスで活躍している柴田選手、3人目は柴田選手のペアの緒方選手にインタビューしました。3人の選手にはバドミントンのために食事でも何を気をつけているかや練習の合間に何を食べているかや睡眠時間、トレーニングで一番どこを鍛えているかなどのインタビューに答えていただきました。その結果も3人でしっかりとまとめました。今からしていきたいと思うのは、町や地域のためになること、実際にインタビューで聞いたものを自分たちで実践していきたいと思えます。まだまだアクションは増やしていきたいと思うので3人でやりたいこと必要なことを話し合い実践していきたいと思えます。」		

健康と福祉探究ゼミ

探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー	探究テーマ	メンバー
よりよいメンタルヘルスを	辻浦羽彩	私たちが子どもにできること	宮本朱梨 新谷蓮佳	パラスポーツの認知度を上げるためには	緑川歩幹
<p>内容</p> <p>職場、学校などの環境が原因で心が病む人が増加しています。そのなかで、私は「うつ病」に目を向けました。うつ病の原因のなかに、職場や学校でのストレスがあります。環境が悪いだけで、心が病んで人生が台無しになるなんてもったいないと思いました。そして、うつ病になるうつ病に気づきやすく対処ができるよう行動しやすい環境に、職場うつにならないよう対策ができる優しい社会にするにはどうしたらいいのかについて考えています。</p>		<p>内容</p> <p>私たちは子どもと音楽が好きという共通点から一緒に活動することになりました。今まで行ってきたのはまず、子どもの現状を調べた時にコロナ禍での自律神経の乱れで自律神経失調症になる人が増加傾向にあるとわかりました。そこで私たちは広野子ども園「ひろばく」さんにて子どもたちの生活に関するアンケートを実施しました。アンケートの結果を集計し、自律神経に関わる主な原因をこれから解決に近づけていければ良いと思って活動しています。</p>		<p>内容</p> <p>始めようと思った理由は、自分自身パラスポーツに興味があり授業の中でパラスポーツを主とする授業を受けたことがあったからです。行った内容としては、まず初めに王道のパラスポーツについて調べ、そのスポーツができた歴史について調べました。次に行ったこととしては実際に体験してみたいと思い田村市陸上競技場いきバラ陸上の練習会に参加させて頂いた。その後事務局長の斎藤さんに質問しました。アクション終了後パワーポイントにまとめました。</p>	
野菜スイーツで健康に！	横瀬亜美 鈴木心寧	運動が苦手な子供は、どうすれば動くことを楽しく感じられるのか	須賀悠太	LGBTQを身近に感じてみよう！	赤井晴香
<p>内容</p> <p>私たちは、まず福島県の子供の肥満に目を向けました。どうして肥満児が多くなってしまったのか私たちが考えた結果、栄養価の高い食材は子供たちに避けられがちなんじゃないかと考えました。まずは、知識を増やすために本やインターネットを使って調べ学習をしました。そして、栄養教諭の水口先生にも話を伺いました。学校の栄養教諭ならではの専門的な知識を沢山聞くことが出来て、すごく勉強になりました。今後は、子供に向けて食への関心を持って貰えるようにレシピを考案したいと思っているのでコンテストに応募しようと思っています。</p>		<p>内容</p> <p>“福島県の肥満度が全国トップクラスを占める割合で、少子高齢化と同時に肥満度の高さが問題視されている。また、家庭用ゲーム機等の開発が進んでおり、屋内で遊ぶ方が楽しいと感じることが多いと思う。震災から11年が経って、外での行動制限が無くなってきた。だからこそ、復興を成し遂げ前より発展して帰ってきたふるさとで未来を担う健康な人材を育成することが大切だと思う。運動といっても、ケガのリスクを伴うようなものではなく、ラジオ体操の様な手軽かつ簡単なものが理想になってくる。”</p>		<p>内容</p> <p>私は演劇の作品でLGBTQに興味を持ち、LGBTQの中でも、同性愛という所に目を向けて、「皆が充実した環境で、充実した環境で過ごすためにはどうしたらよいか」というテーマに決めました。夏休み期間中に自分の身近な人の色んな考え方を知るために、高校2年生にアンケート調査を実施し、LGBTQや同性婚について多様な意見を頂きました。アンケートにより多様な考え方を知った私は、更に他の視点から色んな考え方を知りたいと思い、今度は住んでいる地域に視点を当てて調べました。都会と比べて田舎ではLGBTQの方々が集まる機会がないことが課題だと思い、田舎にコミュニティーや都会との差の現状を伝えるために、世代別に誰でも見られるものを作成したいと思っています。</p>	
ブラウスを作ってみた	吉田梨紗	♡BIG LOVE♡	草野理香子 渡邊縫土屋樹	HSPを理解してもらいたい	尾内佳奈
<p>内容</p> <p>“自分で一から服をデザインして作りたい、そして多くの人に自分の服を手にとってもらい、喜んでもらいたい、そう思うようになったのがきっかけです。私は夏休み前にブラウスを作りました。作ろうと思ったきっかけは自分が行きたいと思っている専門学校の最初の課題だからです。型紙も自分なりに考え、そして運よく描いていたブラウスを作ることができ、ボタンホール以外は作り終えることができました。夏休み中は、祖母にインタビューをしました。あとは、服を作りました。自分の中で少しドレス作りに興味があったので挑戦してみました。型紙は自分で一から作るのとは諦め、ドレスのビスチェ部分の型紙だけ買って、スカート部分は型紙を使わずオリジナルで作りました。ドレスを作るのに何度も何度も苦戦しましたが、最終的に作り上げることができました。今後は、私がしていきたいことは、多くの種類の服を作ること挑戦すること、そしてファッションについて学ぶことです。”</p>		<p>内容</p> <p>これまでの活動はALTの先生の結婚式の企画、運営。先生方に国際結婚や愛についてのインタビュー。結婚式場に電話やメールなどの取材を行いました。これからは幅を広げて地域の方や双葉部の新婚さんなどに取材をしたり、結婚式企画だったり、ホームページを作ったりして考えを深めていきたいと思います。私たちは聞きに来てくださる方みなさんに少しでも面白いと思ってもらえるような発表をしたいと思っています。</p>		<p>内容</p> <p>最近HSPという言葉を知ることが多く、自分自身もHSPであったため同じ状況で苦しんでいる人を助けてあげたい、HSPである人自身も周りの人も理解してもらいたいためこのプロジェクトにしました。これまでのアクションは、まずインターネットと本でHSPについて調べました。意外とHSPに関する本があり、HSPが広まりつつあるのかと思いました。また自分でも初めて知ったこともありました。次にアンケート調査をしました。アンケート調査をする前、HSPについて知らない人がほとんどかなと予想してました。アンケート結果を見てみると、HSPという言葉を知ったことがある人は約50%でしたが、詳しく知っている人はほとんどいませんでした。やはりまだ知らない人はたくさんいるんだなと思いました。これからやってみたいアクションはカウンセラーの先生方にアンケートを取ったり、HSP専門の先生の話聞いてみたいと思います。また、HSPと地域の関係性を探したいと思います。</p>	
この世はカラフルだ!!	四條海璃亜				
<p>探究テーマについての説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマが変わった経緯 ・探究テーマの設定理由 ・LGBTQ等の性的マイノリティについて学ぼうと思ったきっかけ <p>アクションした内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で「LGBTQ等の性的マイノリティについて」のアンケートを高校1〜3年生に実施した。 ・さんかく交流会（いわき市でセクシュアリティやジェンダーについて話す会）に参加し、年齢や性別にお互いお話をした。そして交流会のように作成した「性的マイノリティについて」のアンケートを実施した。 ・10代限定のさんかく交流会に参加し、お話しや探究に役立つ本を拝見させて頂きました。 ・絵本を作るために、実際に性的マイノリティについて書かれている書物を読み取り、作るための情報を集めている <p>アクションをしたことで考えが変わったこと・気づいたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までは、聞いてみて、それを自分で解決するために、アンケートをとったり交流会に参加しようと思っていたが、話を聞いたり対話をしているうちに、形に残せるものを作って自分自身にできることをしたいと思うようになった。 SDGsと照らし合わせたとき関連する項目 ⑤ジェンダー平等を実現しよう（一人一人のジェンダーの違い等） ⑩人や国の不平等をなくそう（ジェンダーによる不平等等・国によるジェンダーへの対応の違い⇒同性を好きになることは犯罪とする国がある等） ⑪性み続けられるまちづくりを（人の目を気にしてしまふ・地方だと目立つ等） 私が思い浮かべる「地球・社会のあるべき姿」に近づけるためにできること ・私が思い浮かべる「地球・社会のあるべき姿」は、性的マイノリティに限らず、国籍や肌の色、価値観の多様性、それぞれの個性を尊重し、違いを理解できなくても、それも含めてその人だと受け入れることができる社会です。 ・近づけるために ①言語、年代問わずLGBTQ等の性的マイノリティについて知ってもらい、理解できなくても受け入れようとしてもらえる人一人でも増やすために絵本で伝えていく。を受け入れる等） ②働きがいも経済成長も（生まれ持った性別によった、仕事・服装） 					

